成年コミック
ANGEL COMICS
ACTION PIZAZZ BRAND
地下30mの秘め事に…
Secret at 30 meters underground
地下30mの蜜月を…②
彩画堂
Presented by SAIGADO

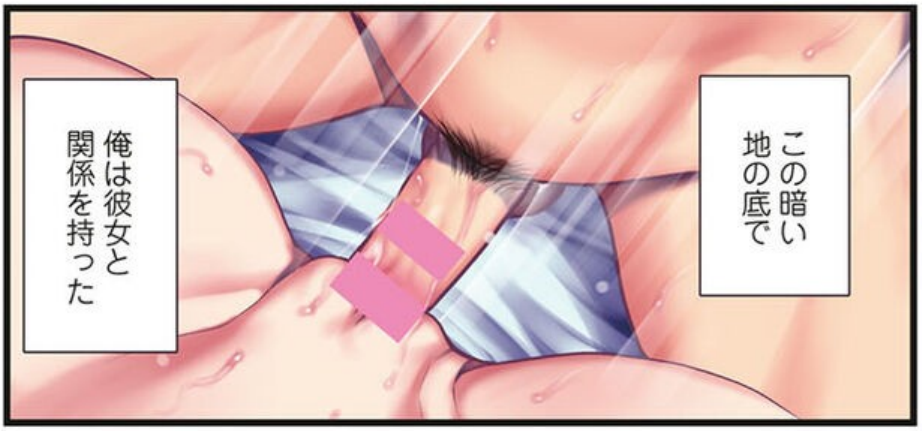
CONTENTS

第10話 ネズミ……3
第11話 思惑……23
第12話 猟犬……43
第13話 師弟……63
第14話 満州……83
第15話 餌……103
第16話 侵攻……123
第17話 峡谷……143
最終話 月光……163

COVER DESIGN
VOLARE inc.

全ては…
俺の自宅に突然現れた
奇妙な穴から始まった…
俺はその穴に吸い込まれるように
この地下道の最深部へと迷い込み
一人の少女に出会った
ようこそ誉(ほまれ)……
地下30mの世界へ…

あ…っ
んあぁっ…
ああっ
誉…っ

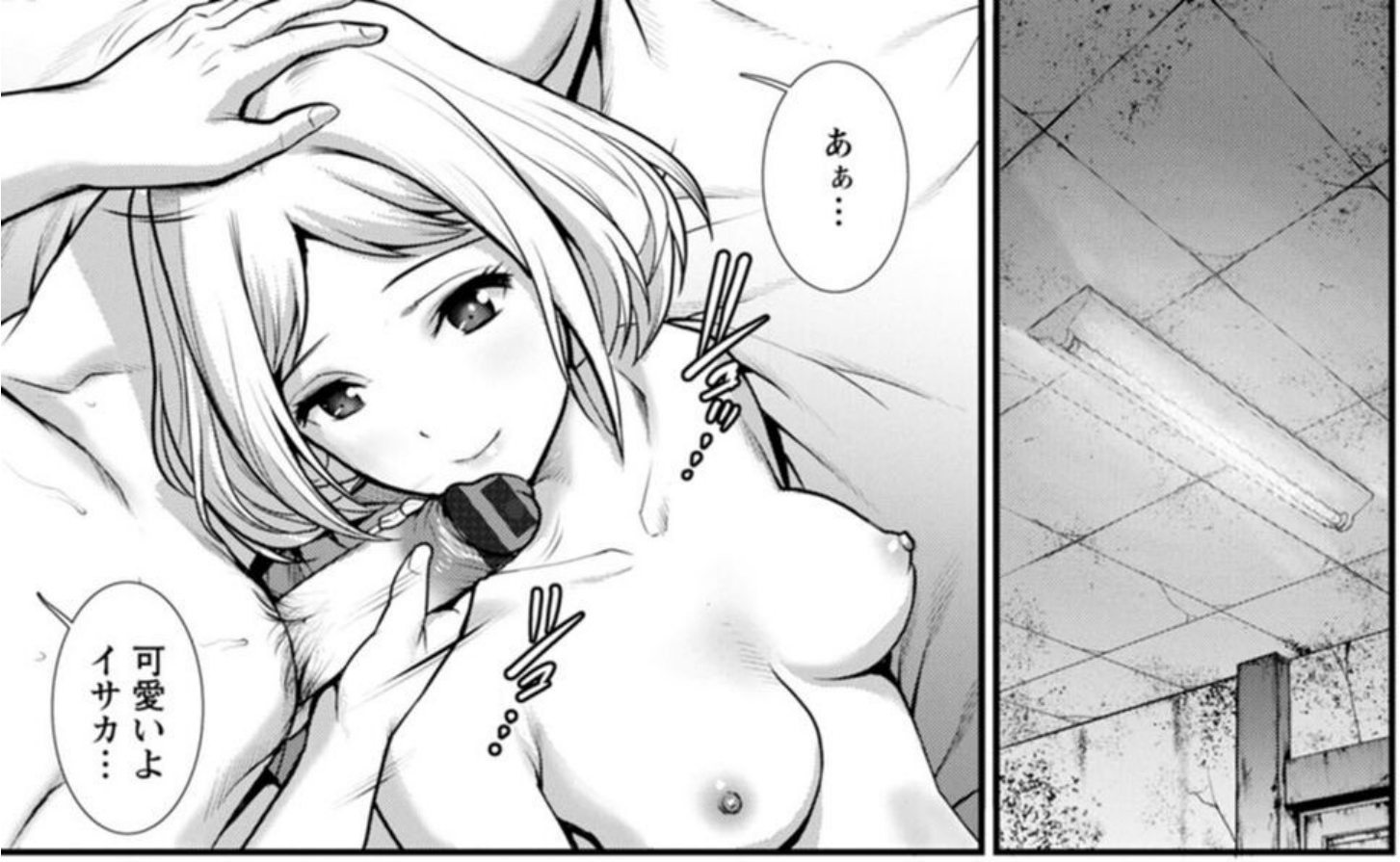

この暗い
地の底で
俺は彼女と
関係を持った

イサカ…っ
あっあっ…
あっ…
っうっ…

イサカ…
日本人の
ようにも
見えるし…
違うようにも
見える……

誉……
ああ……
イサカとの地下30mの蜜月は…
ああ……ああ…っ
お願い…
あなたの精液が…
欲しいの……
俺を深みへと引き込んで行く……
第10話 ネズミ

っあ…っ
ああ…っ
く…っ
ああ…
出して…
誉…
はっ
はっ
はっ
いっぱい…
俺は…
この深みから
出る事も
できず…
ただ…
はあぁ
あぁあっ
そんな感覚に
襲われる…
あ……！
イサカに
吸い込まれて
いくような…


あぁ…
可愛いよイサカ…

誉も…
とっても
たくましくて
素敵……

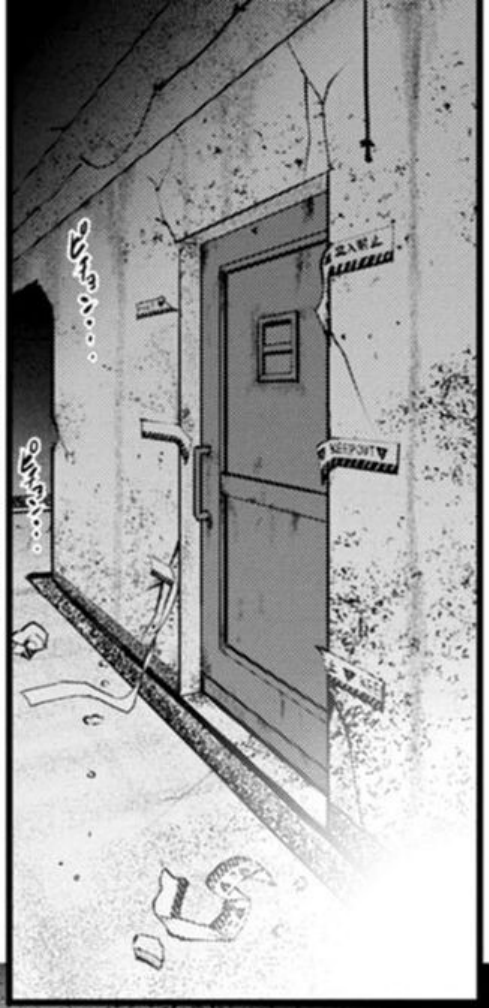
だから…
かけて…
誉の
精液……

誉の暖かさに
触れると…
すごく
安心する…

イサカの望みとはいえ…
愛情が芽生えてしまった以上…
こんな侮辱的な行為をすべきではない…
だがイサカを…
思うままに汚辱したい暗い欲望と
射精を待ち望む期待の視線が…
俺の思考を混濁させる
ぁあ……
……
俺はなす術もなく…
ただ情けない声を上げ…
ぼたっ
ぼたっ
射精するしかなかった…

足下に気を付けろよ
だ…うわっ…
大丈夫っす…
いやぁ…話には聞いていたけど…
すごい所っすね…
はは…戦争中に作られた地下道でな
俺が子供の頃発見されて大ニュースになったもんだ
なるほどねぇー…
だが複雑すぎて取り壊せず都の管理下になり
こうして我々建設局が巡回してるわけさ
そういう所は危険だから
絶対に踏むなよ
わ…わかりました
地下10mぐらいだな
河口が近く塩水が流入して腐食している箇所がある
ここどのぐらい深いんです？
ん？
え？なんすか？

ど…
どうしたんすか？
……テープが…
切られている……


ピィィン…
ピィィン…

ここは特に危険でな…
万一迷い込んだ人間が立ち入らないようにしていたんだが…

危険？
見てみるか？

…はぁ…

…なんだまた部屋か…
向こうにもドアが…

下を見ろ
……へ？
！
ひっ…！
ひいいいい
いいイィッ
わからん
職員の間では
〝峡谷〟と呼んで
いる
この下が
どうなってるかも
わからないまま
放置された場所だ
あまりに
危険すぎて
調査できず
なっ…！
なんすか
これ！

なんだ？
前の巡回では
あんなものは
なかったはず…

…んっ

ガチャ
ィィィ

何？
だっ…誰か
いるみたい
っすよ！

誰だ！
ここは
立ち入り禁止
だぞ！
！

追うぞ！
あっ！逃げた！
は…はいっ！
！
タッ！
カンカンカン…
……ネズミめ…

…でも
あれは富嶽の手の者には見えなかった
じゃあ誰が？
あんッン…
わからないけど…
私たちがここに隠れ住んで以来
都の職員以外の人間は一度も侵入していない
…つまり
俺がそいつにつけられた…
……そのようね…
すまなかった…
綾の言うとおりだった…
俺が甘かったばかりに…
いえ…まだ正体がわからない以上…
あなたを殺すのは後にするわ…

川西綾
かつては名門獅子ヶ園病院の医師だったが
あ…くっ
イサカに出会い…
その運命を狂わされてしまった
はへっ♡
あ…ッ責めて…
んあっ…
地下30mから続くこの朽ちかけた病院で
イサカと共に隠れ住んでいる

いい加減にして！
そんなに私の秘密が欲しいの？
なら…
誉を殺したら私も死ぬ
そうなればあなたは終わり
秘密は永久に失われる
綾……

お前も富嶽と同じ
イサカの秘密を欲しがる
その1人にすぎなかったわけか…

はぁ…はぁ…
え…ええ…
でも…
でも？
未だに私にも…ッ
イサカの持…つ秘密は…
わからないままよ…

あっあっな…何年もずっと…っ
調べてきたのに…
つっ…ついに…っ…
わからな…かっ…たっ…
でもお前は富嶽のように…
イサカを拷問したりしなかった
えっええ…っだって…
その必要はないもの…
秘密の本体さえ
手元に確保すれば…
あとは…ああっ！
ああッ！あっあっあっ…

ああっ！
あっ！あっ！
ああ～っ
あ～～～っ
ご…
ごめんな
さ…
ゆっ…
許して…っ
うう……

前から薄々
感じていたが…
あ～～～っ
あっあっ
あっあっ
許してぇぇ
許してぇぇ～
間違いない
綾は何かに
怯えている…？

おっ…うっ
誉…っ
あ……
綾っ！
許してっ
ゆる…
ゆ……
ゆるし…
て……
あ……
あ…っ…
うっ……
…綾は…
何に怯えて
いるのだ…
…？

まだそんなもの吸ってるのか？
これればかりはね…
…でも
……でも？
あなたとこうなってから
不思議と…
本数は減ってるの
そうか…
どこのネズミか知らないけど…
誰かに嗅ぎつけられた以上…
ここも安全ではなくなるかもしれない
誉…私が万一の時は
イサカを頼むわよ
…ああ
ふふっ
別に長生きしたいわけじゃないのにね

ねえ…
リーン…
リーン…
やっぱり誉も…
私の秘密を知りたいの？
……
……
…いや…
知りたくない……
…どうして？
もし俺が秘密を聞いてしまったら
お前は俺がいつか裏切って
自分を富嶽に売るかも知れないと警戒するはずだ
俺はイサカにだけは…
そう思われたくないんだ…
…誉…

ねえ誉…

いつか私もここから…

出られるのかな……？

ああ

出してみせるさ

約束だ

第10話 END

さあ〝選ばれし者〟たちよ
これより我らが偉大な師教ゼノ様が
お前たちに〝虚身の法〟を授けて下さる

精神を集中し己が肉叢の軛を解放せよ
は…はい…高教さま…
ゼノさまに従います…
ああ…ゼノ様…
どうか私どもに真の法への道をお授け下さい…

よいな？
は……
はい……
そなたが
〝永遠〟の肉叢〝〟を
その身に得るか
否か…
それはこの
虚身の法による
〝神授〟を通じて
我が神がご判断
下される

あっあっ！
ぜ…ゼノ
さまっ！
あっあっ
ああ〜〜〜
〜〜〜っ！
高教さま
上村
高教さま
お話が

どうした？
娘の居場所が
わかりました
…ですが…
詳細は
尾行した
草伏から

高教さま…
人手を出して
頂けませんか？
草伏
どういう
ことだ？
例の娘は
地下道にいる
と聞いたが？
それは間違い
ありません

ですが地下道の内部は余りにも広大で……
娘の居場所どころか帰り道にも迷う始末です
ふぅむ…よしわかった
特務部と施設部から20名動員しろ
これはゼノ様の命令だ
必ず探し出し確保しろ

第11話 思惑

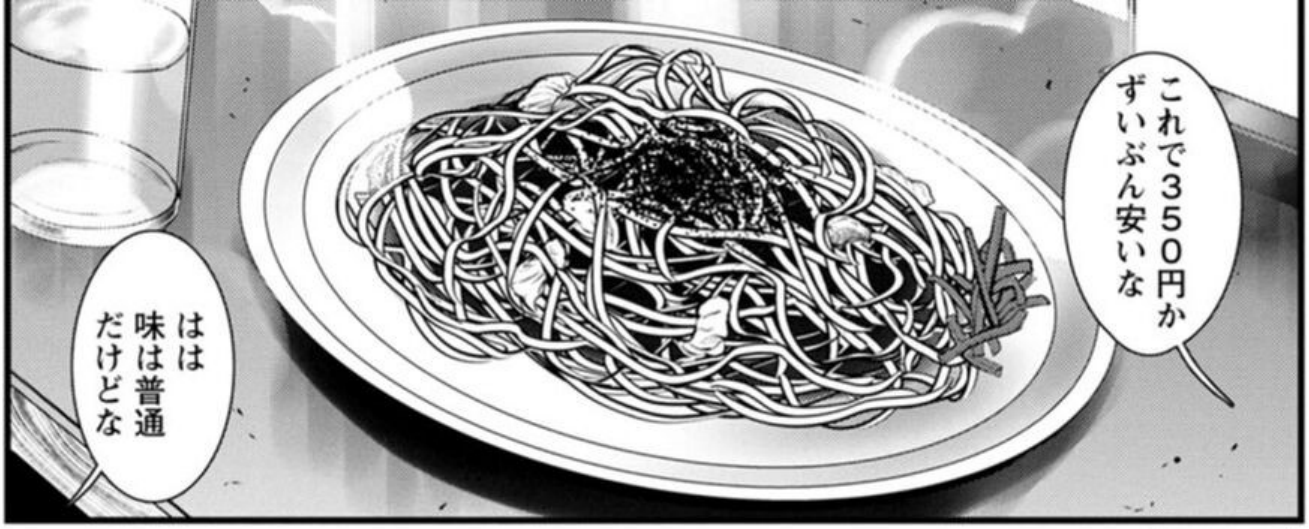
おい
誉(ほまれ)…
お前本当にどうしたんだよ？
プッ
プッ
プッ

具合悪いなら早退しろよ？
今は繁忙期じゃないんだし

ははは…なに…
ちょっと寝不足なだけさ…

仕事という日常と地下道の非日常を昼夜渡り歩く生活は…
思ったよりも大変だな…

やきそば
名物やきそば
なあ給料前だしここにしようぜ
え？飲み屋だろここ
焼きそばもいけるんだぜ
へえ…


これで350円かずいぶん安いな
ははは味は普通だけどな

そう…普通でいい
この安っぽい麺と業務用ソースの味
日常的でホッとする味だ…

唐突な法案撤回で国会審議を混乱させた政府与党の責任は重い
さらに真壁前総理の不正支出疑惑
国民も怒り心頭でありましょう
LIVE 民憲党 関雅勝幹事長

中継です
13時から与野党による幹事長会談が…
これで350円なら悪くねえだろ？
ああいけるな
チューハイ
梅ハイ
パイスサワー 350
緑茶ハイ 320

なぜ会談内容を非公式に？
口角泡飛ぶ大論戦必至ですからね
ガツーンと言ってやるつもりです

バタン

……あ…
あのう…
富嶽幹事長…
ここは…
禁煙では…？
ああ…
関さん…
マスコミに
踊らされて
まったく…
馬鹿な事を
しましたなぁ

こっ困るじゃ
ないですか
富嶽さん
給与法案まで
取り下げるだ
なんて……

土壇場で
検察の任期延長に
反対したのは
お宅らでしょう？
この2つは
公務員法改正の
束ね法案
素直に賛成して
お互い得しようと
示し合わせたはず
これで民憲党
支持層である
公務員の給与
増額がパァ
公労連盟に
どう説明
するんです？
う……
うう……

関さん確か新聞記者出身でしたね…？
政治家に向いてないんじゃないですか？
正義気取りで無知な大衆を騙し不安を煽動しては下らない紙クズを売りつける
そんなお気楽で無責任な商売とは違うんですよ
我々は国民に飯を食わせるのが使命なんです

それなのに自分の〝身内〟も満足に食わせられないとは…
お先真っ暗ですな
では失礼

幹事長！会談は？
あー…関幹事長の厳しいご指摘を謙虚に受け止め
混乱の解決に向け前進する事で一致しました

イサカはまだ見つからんのか？
申し訳ありません
ドロロロロ…
方々手を尽くしているのですが…

ですが監視中の例の団体に動きがありました
例の地下道の探索に動員をかけたようです

なに？
あの地下道は真っ先に調査させたはずだ
はい…探せる範囲は徹底的に調べましたが…

なんて
ことだ…

また振り出しに
戻されるとは…

あの場所から
私がこの地位を
得るまでに…

様々なものを
犠牲にしてきた…

下げたくもない
頭を下げ

望まぬものを
受け入れ

大事なものを
捨て去ってまで

私は立身出世の
道を進んだ…

そうしてやっと
私は今の地位に
上り詰めた

だからこそ
あの娘から
秘密を聞き出し

この栄華を
不朽のものに
しなければな…

私にとって
未来こそが全て

過去を振り返る
つもりはない…

それなのに
また……

あの地下道に
引き戻されて
しまうとは…

イサカ…
また…
この穴蔵に
逆戻りだな…
気に
しないで
誉…
隠れるのは
慣れっこ
だもの…

それより
ほら…
また固く
なったよ
はは…
昼は会社で働き
夜は地下道を見回る
二重生活…
だがイサカを
思うたびに…
俺は何かに
突き動かされる

誉…
疲れてる
でしょ？
そう…
俺は疲れて
いる…
次は私が
上になるから
なのに…
男の欲望が
頭をもたげ…
射精せずには
いられなく
なる……
イサカを
目の前に
すると…

ああ……
んんっ…
誉も
気持ちいい？
ああ…
夢見心地
だよ…
私…
誉がそばに
いてくれて
本当に
嬉しいよ…

私は秘密のために逃げて…んっ…ただ逃げて…
もちろん助けてくれる人もいた…
けど…
みんないなくなった…
安心できる場所なんてなかった…
パン
パン
パン
だから誉がいてくれて…
本当に嬉しい…
イサカ…
あ……
あ…あッすごい…ッ
いっいいっ誉いいっいっ激しッ…
イサカの言葉だけで
はっ
はっ
はっ
たちまち力が俺の中に湧き上がる…

ウッ！
いっいっイ…イクっ…誉…ッ
んんんンンンンンンンンッ
はーっ
はーっ
はーっ
はーっ
ま…またイク…ああっ！
あああッ！あっあっあっ
いっイクッイサカっ！ああ……

ああっ…
あっ…
イサカ…
ううっ…
はぁ…
はぁ……
ああ…
誉……
いつも
ありがとう…

ああっ！
あっあっ
あっ…あ
あっあ…
ああ！
あ～～～～
～～～～っ
ああっし…
師教さまああ
あぁぁ～～～～
あ～～～っ！
あ～～～～っ
ああ～～～
ああ～～～～
ふむ…
第一受法は
これでよかろう
次はお前か
は…はい
お願いします
師教さま…

お前は飲み込みが良い
法を得るのも間近であろう
ああ……ゼノ様…
どうぞ我が胎内に受法を……
おお…お前の肉叢は…
あっあっありがとうございま…
真理に近くある
あっあっあっ師教様あぁぁ〜〜〜〜っ

ギッギッギッ
見えるか？
は…はいっ 見えます！
光が 見えますっ
あっあんっ いい！いいっ♡
ああっ 師教様っ あっあっ！
ああ～～っ あ～～ン♡ ああ～～～！
ああ～～～ いい～～～っ
いっいいっ いっおっ おっ♡
おおッ おほぁ～ ～～～ッ

この女は
借金癖のある
夫に苦悩し
我が教団に
救いを求めた
だがな
女よ……
ここに救いなど
ありはしない
やれやれ…
師教様の
女好きにも
困ったもんだ
まあまあ
高教さま
そのおかげで
我々も儲け
させて貰って
わけですから
ピッ…
ピッ…

ふーむ…俺が若い頃は女を騙してソープに沈めたもんだが
そろそろあの女も動画にしますか？
美熟女系は儲かりますよ
DonnA MoV
Commision/Patron/Pay par view
今はこういうやり方で儲かるんだな……
来月は部屋も撮影機材も空いてますし
わかった師教様に奏上する
[40歳熟女]クッソ
にゴム無し強制生射してわからせ
ナマダシタロウ
/iews 32032
援300/month
支援歓迎]お金がないので私たちセックス見せます支援おねがいし
ななみ
Views 43390

ところで師教様は例の娘の捜索にご執心のようですが…
きっと相当な美人なんでしょうねぇ

さあな…理由を話してくれん
全く面倒なことだ…

我が教団が崇拝する神の奇跡
〝永遠の肉叢〟
不滅を司る聖なる肉塊…
それを得たものは永久の生命を得る
ふっ…そんなもの…
うちの師教のでっち上げなのにな…

自治体は危険な宗教団体信者の住民登録を拒否せよ
世良谷三丁目町内会
永遠の肉叢の地域受入れを拒否します
世良谷三丁目町内会
永遠の肉叢は出て行け！
世良谷三丁目町内会
この町にカルト教団はいらない！
世良谷三丁目町内会
永遠の肉叢は即刻本部を移転せよ
世良谷三丁目町内会

……ふむ
これでよい
…そう

永遠の肉叢…
そんなもの…
あ…っ…
ああ……
あり…がとうござ…ま…

第11話 END

A班は東方向
B班は南方向を探せ
わかりました
我々は二手に分かれ北と西だ
はい
目標は娘の確保
身長は150前後
年齢は10代後半から20代前半
非常に珍しいターコイズ色の目をしている
白い肌で肩までの長髪だ

コンパスでマッピングしながら進め
間違えれば帰れなくなるぞ
ここは電波が届かぬ地下の迷宮だ
散開！
……あれは…
なんであいつらがイサカを…？

宗教団体？

綾 心当たりはあるか？

…いえ… 保守派のドンの富嶽の後援は神道系と仏教系の団体ばかりで 外国宗教は聞いたことがないわ…

ああ…以前街で見かけた連中だが 西洋の魔術師のような格好をしている

私が富嶽に捕らえられていた時 黒服の男がたくさんいた……

だからもし私を探しに来るなら 彼らが来ると思う…

…つまり

イサカの秘密を知るものが…

もう一人いる……？

……
……
ブル
ブル
…ゼノ様？
はぁ…んっ
んっむぐ…
どうなされ
ました…？
…また…
いや…
気にするで
ない……
では儀式を
はじめよう
ああ…
よろしく
おねがい
します…
どうぞ
我が胎内に
ゼノ様の
授法を…
第12話 猟犬

うむ…
お前は神の意思に従順のようだ しっかり授法せねばな
は…はい 私は預言者ゼノ様の…
忠実な下僕(しもべ)です
はッ♡
はッ♡
はッ♡
よろしい 次は…
天地を入れ替えよ
ゼノ様…
これでよろしいでしょうか…？
はぁ…はぁ…
は…はい…

ああっ！
お…おおッ！
ゼノ様っ
ゼノさまぁ
どうだ？
光が見え
るか？
み…見えますっ
大きな光がッ…
ふむ…
お前の肉叢（ししむら）は
真理に近い
法を得るのも
間近であろう
おっおっ
おっおお…
う…
うれしゅう
ございます…
あっあっおっおっ
あっおっおっ！
ああ～～～
ゼノさま
もっとぉ～～～♡

むうっ！
おおっ……
お……
むう…
よき肉叢である…
あっ…
あ…がっ…
はへ～♡
はへ～♡
はへ～♡
どっ
ござ…
あはっ……
あはははは…

ははは…師教様は余程あの女がお気に入りらしいですね
動画撮影も断られてしまいましたし…
まったく…
お体に障るから程々にして欲しいものだ……
それにしても高教様…
女ってのはわからんものですねぇ…
一番見込みの無さそうなこの子が…
わ…私はおち○ぽがだーいすきです
これからたくさんの男の人に犯してもらいます…
いやらしい私を見てください…
こんな撮影に応じるんですからねぇ…

それよりもう1週間経つが草伏…
まだ娘は見つからんのか？
申し訳ありません必ず探し出します
…ですが高教様…

まあ儀式の時に流している薬が…
あの子には特段効いたのだろうな
哀れなものだ…

特務班の者が3名
まだ帰ってきておりません
なんだと？

おそらく迷って出られなくなったのでしょう
彼らの捜索にも人手を割かなければ…
やれやれ…
捜索が長期化すれば都や警察に感づかれるかもしれんな…

人員追加を検討しよう
それから都庁に勤務する信者にスパイさせ動きを報告させろ
承知しました

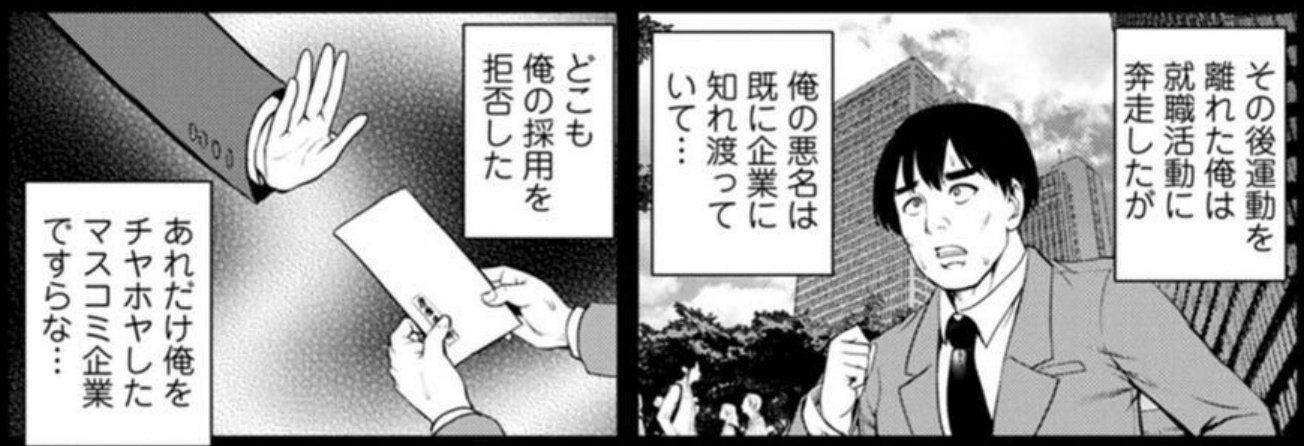
…んん…
ふ――っ……

ふ…

…ふふ
まったく…
醜悪な
教会だ…
我ながらよく
こんなアホな物を
作ったものよ…

塩原総理は
責任を取って
辞職せよー！
イヤアアア
…まあ
俺の人生
そのものが
アホみたいな
もんだしな…

若い頃の俺は
純粋にこの国を
変えたかった
極日新聞
塩原首相への抗議拡大
若者層に広がる怒り
権力の横暴に
立ち向かう
若きデモ隊の
リーダーに
共感する若者
憲法が問題化
ただ
それだけ
だったんだ
社会運動の
美名の裏で
私腹を肥やす
連中に……
踊らされて
いただけとも
知らずにな…


その後運動を離れた俺は就職活動に奔走したが
俺の悪名は既に企業に知れ渡っていて…
どこも俺の採用を拒否した
あれだけ俺をチヤホヤしたマスコミ企業ですらな…

青年よ…世の中には2種類の人間しかおらぬ
「騙す奴」と「騙される奴」だ
そんな俺を拾ってくれたのが…
師教様だった…
だったらお前も
騙す側に回ってみぬか?

ガラガラ…
ああ高教様
これは良い所に…

探索に出ていた施設班か
ごくろう
申し訳ありません娘はまだ…
それと…

うちの班の谷崎と松村が…
帰ってきません…
……なっ
……だと…?

…やはり
あの団体は何か掴んだらしいな

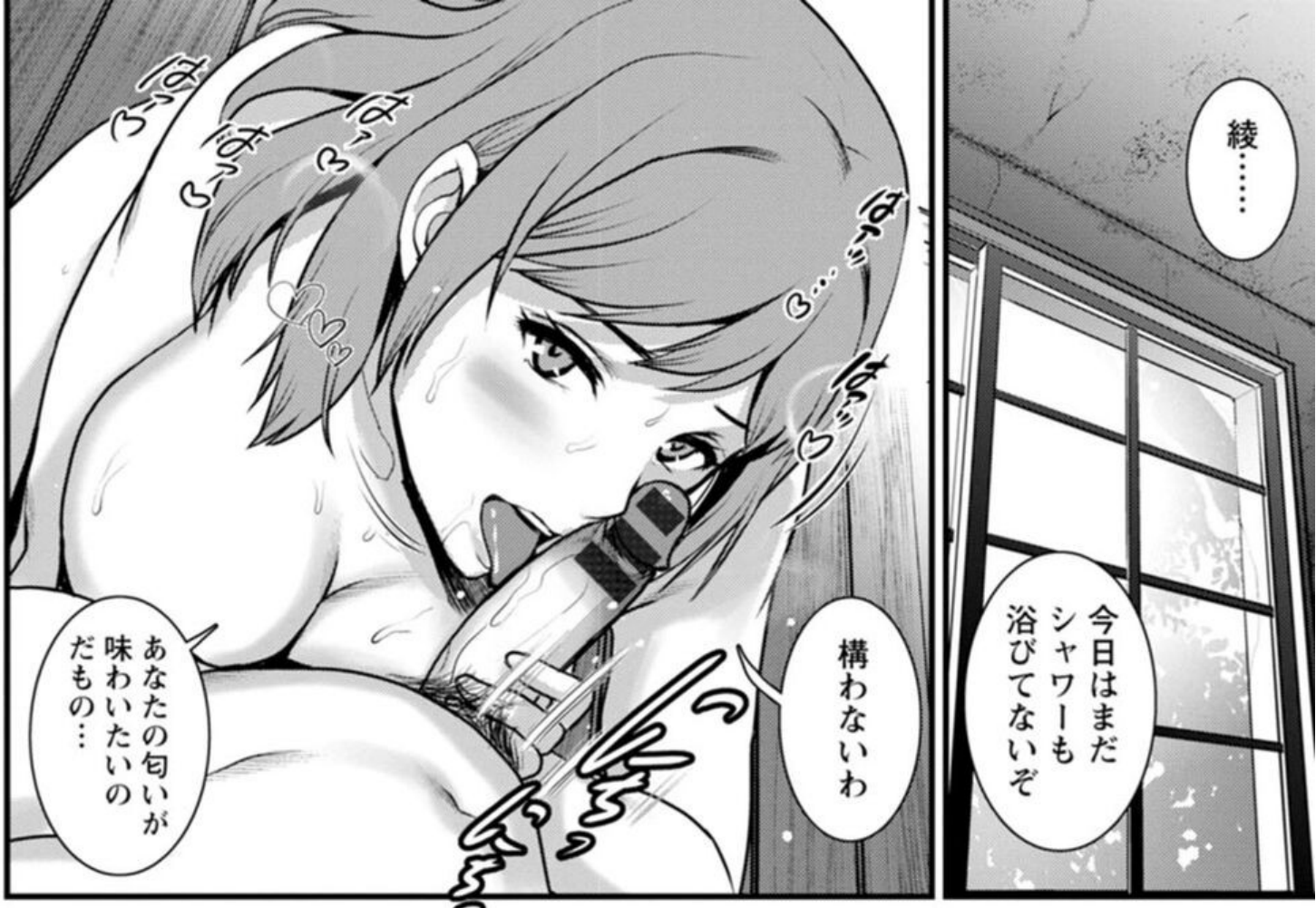
はい 富嶽先生
例の地下道に交代で捜索隊を送り込んでいるようです

ならば我々が直接動かずとも
捜索の輪は徐々に縮まってゆくだろう
…しかし

公安が奴らを監視している以上都や警察の介入は時間の問題だ
そこが付け目だな

週末の予定はキャンセルだ
行く所ができた
…は？どちらに？

〝恩師〟のところだよ
いい〝取引〟ができそうだ

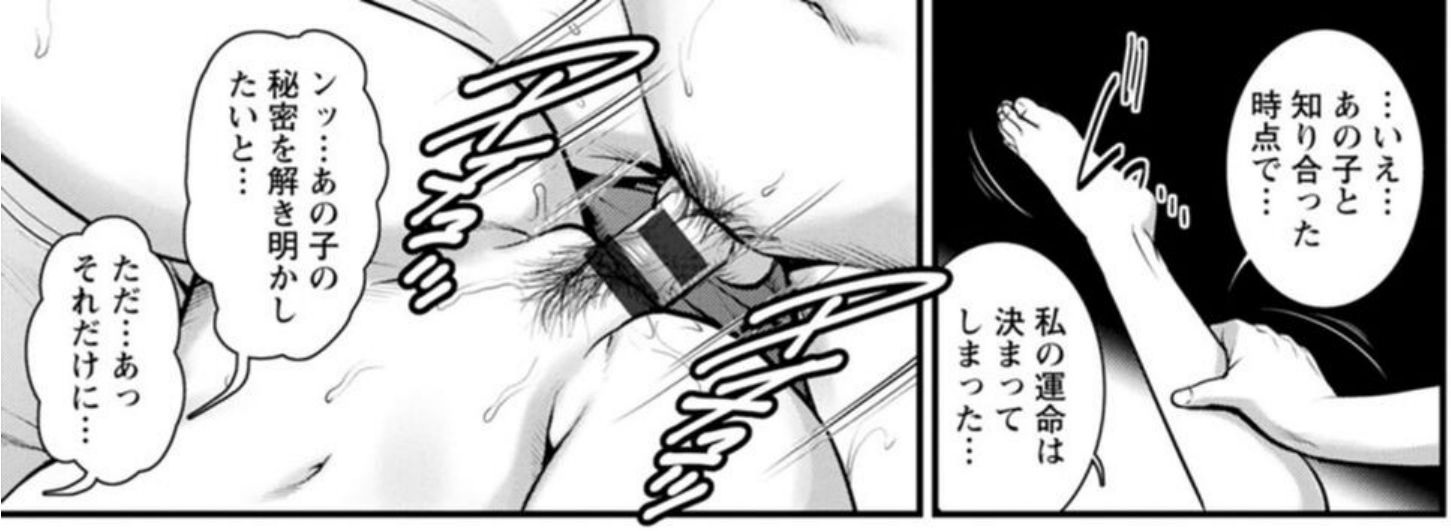

綾……
今日はまだシャワーも浴びてないぞ
構わないわ
あなたの匂いが味わいたいのだもの…
はぁ…
ぴちゃ
ぴちゃ

はぁぁ…
んっ…
んっ…
ああ……
いいわ…
すーっ
はーっ
男の匂い…
これが欲しかったの…
もぐ
もぐ

くう…っ
おおっ…
うっ…
いいのか…
綾…っ
あ……
あっ…
ああ…
出して…
精液を
かけて…
誉(ほまれ)の
濃厚な…
あッあ…
熱いッ…
おっお…
おっ…♡
ううっ！

はぁ…
はぁ…
ああ…
ああ…
すごい…
あっあんなに
出したのに…っ
ま…まだ
ああ…

あっ…なっ
なんて…っ
たくましいッ
あっあ…っ
……お前
いい女
なのにな…
ふふ…
もう少し
早く…
誉と
知り合って
いればね…


…いえ…
あの子と
知り合った
時点で…
私の運命は
決まって
しまった…
ンッ…あの子の
秘密を解き明かし
たいと…
ただ…あっ
それだけに…

あ…ああっ…
これいい…ッ
いいわっ…
誉…っ
もっ…とっ…
お…おおっ…

うぐっ…
う～～っ
誉～っ
う～～っ

おっおっ
おっ…
おっおっ
おっおっ…

うっ！
イク…ッ！
ウウっ！
お……
おお…
はぁ…
はぁ…
イクイク
イク〜〜〜ッ
あッ！
そんなっ！
ま…
また…っ
あぁ〜〜〜っ
あぁ〜〜〜っ
中にっ！
中に出して
誉っ！
はぁはぁ…
あ…綾っ…
えっ…ええっ
出して…っ

お…おお
また…ッ
いくっ！
あぁっ！
あ…
綾っ！
お…
おおっ…
出てるっ…
ああ…
あっ…
ああ……
中に…ッ
はぁはぁ…

ああ…
すまない
いいの…
私も…
激しくされ
たいから……
だって…
いつまで…
あなたと
こうしていら
れるか…
……

あっあっ！
あうあうあう
おち○ぽぉ！
あっイイっ！
おち○ぽぉ！
しゅごいい！
いいいいいっ♡

っあっあっ
あはっ…♡
かけてぇ
かけてぇ
ぴゅっ
ぴゅっ
せいえき
だいすきいぃ
いぃ〜〜〜♡

いやはや…
見てられ
ないな……
でも売上
いいですよ
この子
思わぬ
掘り出し物
です

バタン!!
施設班の
谷崎が…
遺体で発見
されました…
こ…
高教様
お話が…
どうした
草伏?

イサカ…
最近綾の様子がおかしい…
ガッ ガッ!!
リーリー…
なんだか…生き急いでいるようで
あの人は私の秘密を解き明かそうと人生を無駄にしてしまった
あの人だけじゃない
富嶽やあの集団もそう
みんな私の秘密を知りたがってる
…かわいそう？
……かわいそうな人…
でも私は…
他人に教えられる秘密なんて…
何も持ってないの…
……何だって？
第12話 END

はぁ…
はぁ…
はぁっ…
はぁっ…
……不思議だ
何が？
どうして
俺はこうも…
君に惹かれて
しまうのか…

イサカ…
誉(ほまれ)…
ちょっと！
なにやってんだい！
この辺は道狭いんだから大きい車入れちゃダメだよ
す…すいません
弁償しますので
どうしたのかな？
車が植木を壊したんだよ
ここ下町だから皆勝手に路上に置いてるんだけどさ
ふーん…
……あ
あっ…誉……
こんなところで……？

いや？
誉だったら…
う……
ううん…
私は…
あ…っ…
あっ…
あっ…
あっあっ
あっあっ
あっあっ
ああ…
イサカ…っ

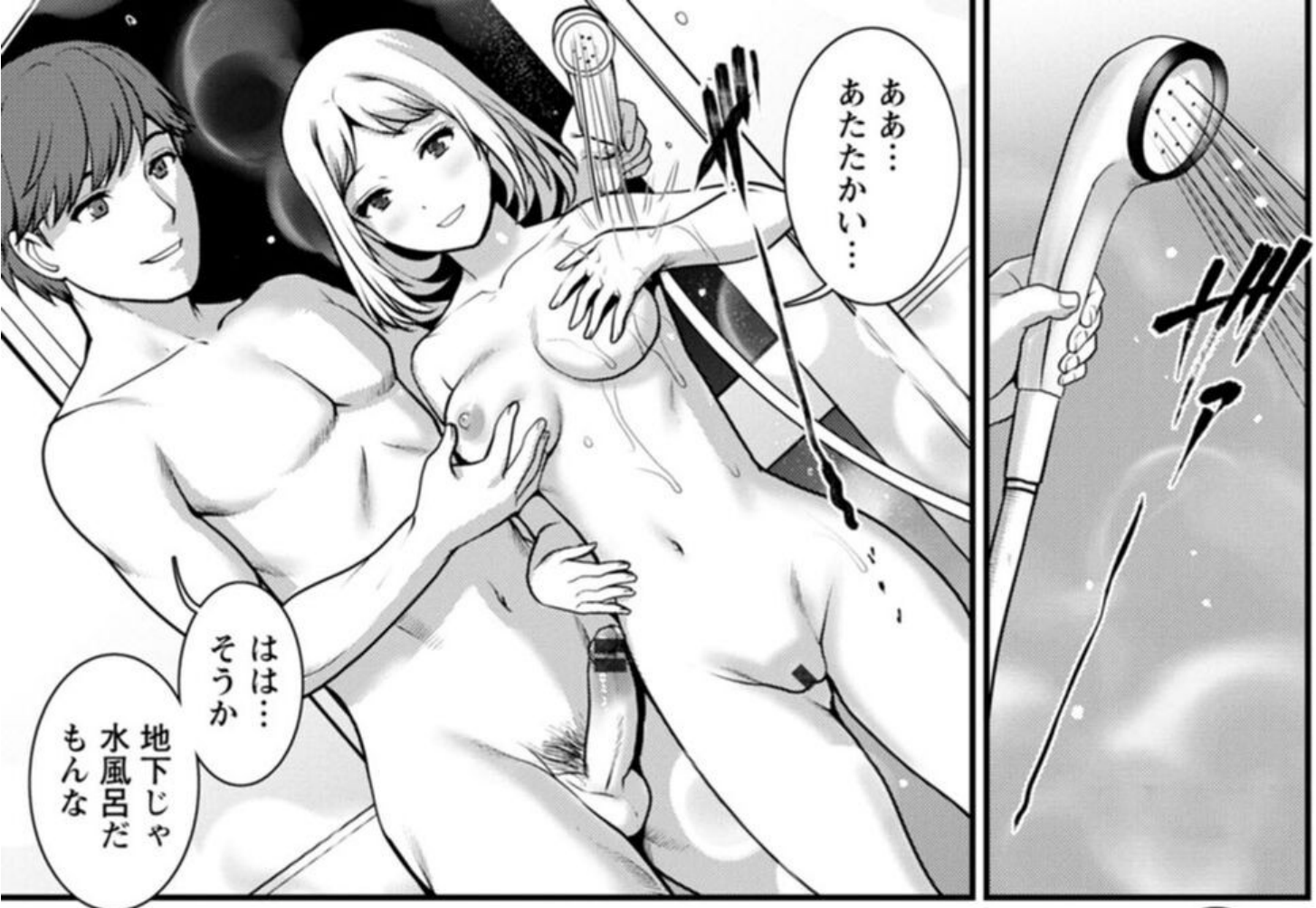
っあっ
あっあっ…
あ……ッ
あ……
はっ
はっ
はっ

はぁはぁ
はぁ…
はっはっ
はっはっ…
あッあ…ッ
あっ誉…っ
見えちゃ
うっ…
お外から
見えちゃ…
ガっ
ガっ
ガっ

うっうっいっ
いっイサカっ
うっう…
はっはっ
ほっ誉…っ
うンッ…

うっうっ…
で…出るっ
いくよっ…
ああ…
出して…
そのまま
中にっ…
はぁはぁ
はぁはぁ…
いっ
イサカの…
中にっ…
くっ……
ああ……

うっ！
あ……でっ…
出てるっ…
ぴゅっ…ぴゅ…って
あ…うっ…
うっ…うう…
はぁ…ああ…よかった…
はぁ…はぁ…うん…
すごい出てた…
いっぱい出してくれて…
私…幸せ……


ああ…
あたたかい…
ははは…
そうか
地下じゃ
水風呂だ
もんな

ふふ…また
誉の硬く
なってる
私に
かけて
いいよ
い…
いいのか？
今更ふと
思う…
イサカは
なぜこうも
精液を
かけられ
たがるの
だろう…

彼女の好きな性癖だから？
そうとしか思えないが…
それよりも
まるでトルコ石のような…
水色の目をした美しいこの顔を…
はっ
はっ
はっ
はぁっ
はぁっ…
はぁっ
俺の意のままに汚辱してしまいたい……
そんな男の支配欲に抗えず
俺は愛するイサカの顔を
思う存分精液で汚す快楽に酔いしれた…

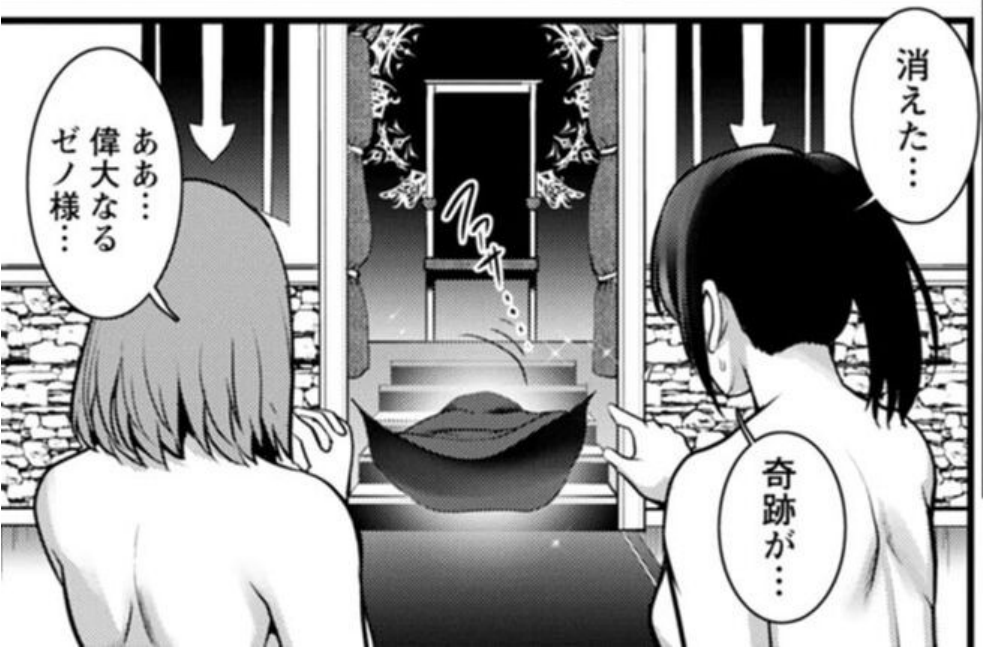
惑うな
心身を解放せよ
ではこれより
虚身の法を授ける
は…はいゼノさま…ああ…
言う通りにしま…す…
我が教団に預けられた
この娘は俗にいうひきこもりで
両親に半ば捨てられるような形で

哀れなものだ…
しかし皮肉なことにこの娘
両親と離れたことで
人の生気を取り戻しつつあるのも事実

ただ抑圧的なだけで愛してくれぬ両親の本心を
この娘は見抜いていたのかもしれぬ
何が人の救いになるかわからぬものだ
こんなインチキ宗教であってもな
むうっ！
あ…！
あ…っ！いっいくっ！

あ……
ああ……
ゼノさま
もっと…
今日の儀式は
これにて
あとを頼む
はい
師教様
どろっ

!


消えた…
ああ…
偉大なる
ゼノ様…
奇跡が…

師教様
どちらに？
上村（かみむら）か
わしは
もう休む

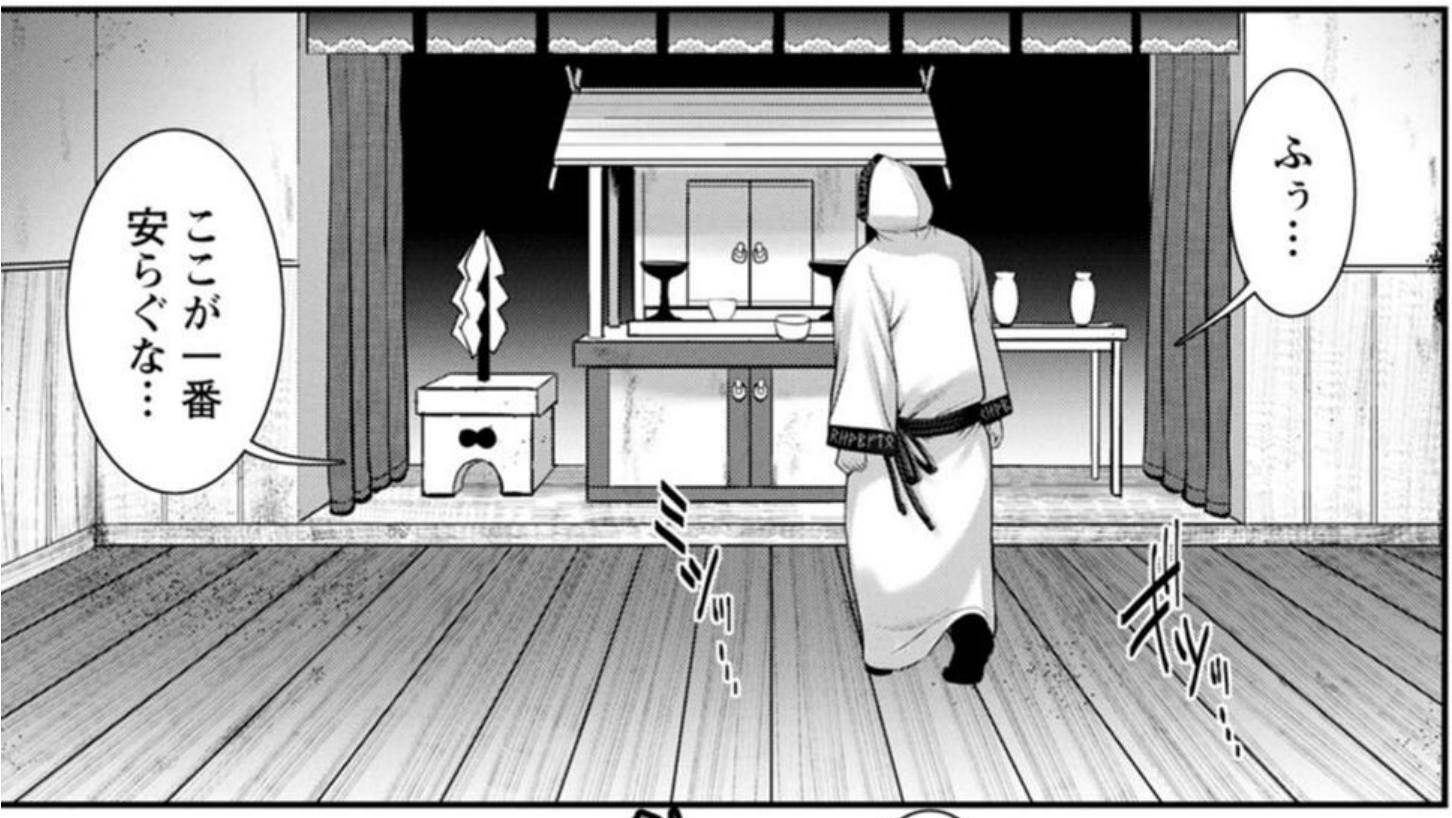
定期報告が
ありますので
私もそちらに
向かいます
ああ

まいどー
陸王（りくおう）建材
ですー
ご注文の品を
お届けに上がり
ましたー

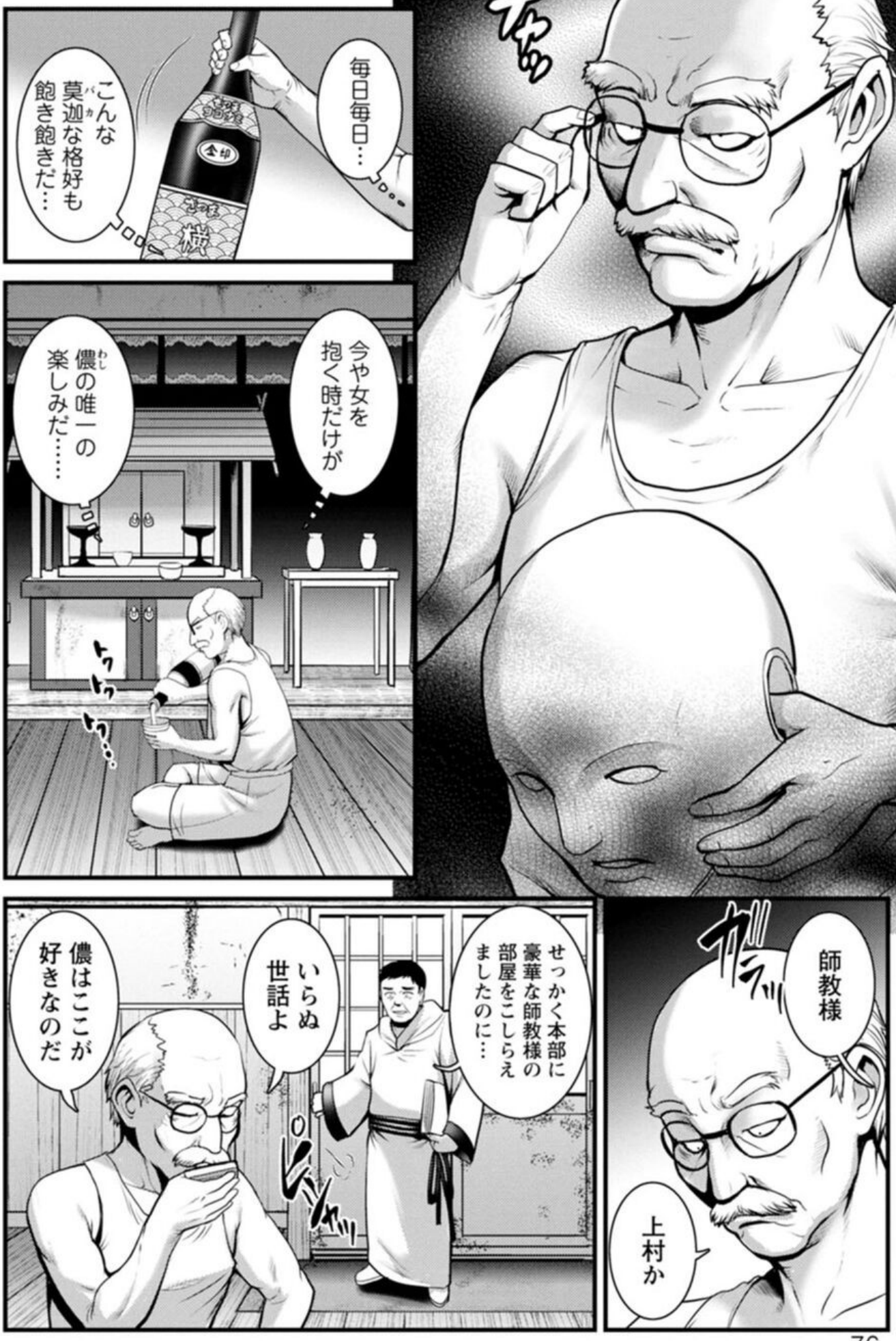
ああ
いつも
どうも
しかし
困ったな
今施設部の
連中が出払って
いるんだ

倉庫まで
搬入しといて
もらえるか？
はい承知
しました
おーい
トラック
いれろー

永遠の肉蒲教団
ガラガラ


ふぅ…
ここが一番安らぐな…

まったく…
暑苦しい服だ…


毎日毎日…
こんな莫迦な格好も飽き飽きだ…
今や女を抱く時だけが
儂の唯一の楽しみだ……
師教様
上村か
せっかく本部に豪華な師教様の部屋をこしらえましたのに…
いらぬ世話よ
儂はここが好きなのだ

もはや儂も老い先短い…
儂が死んだらお前が教団を継ぐがいい
何をおっしゃいます師教さま
お酒を控えて長生きして頂かないと
95の男に何を言うか
好きにさせい

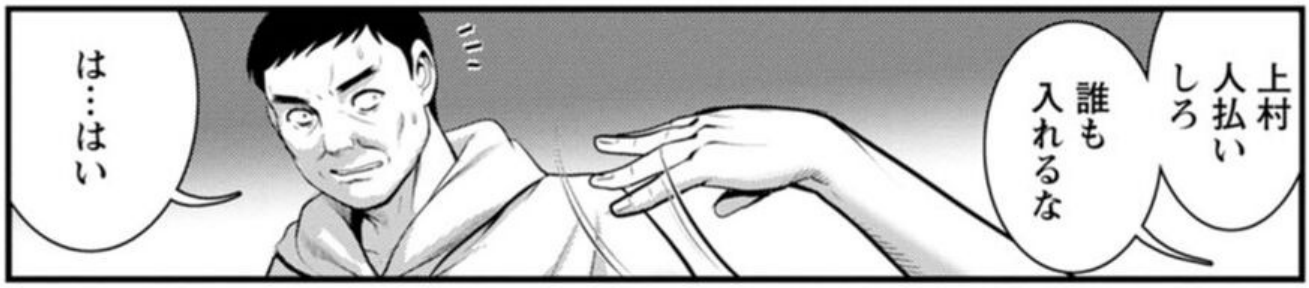
高教さま
あああああぁぁぁっ！

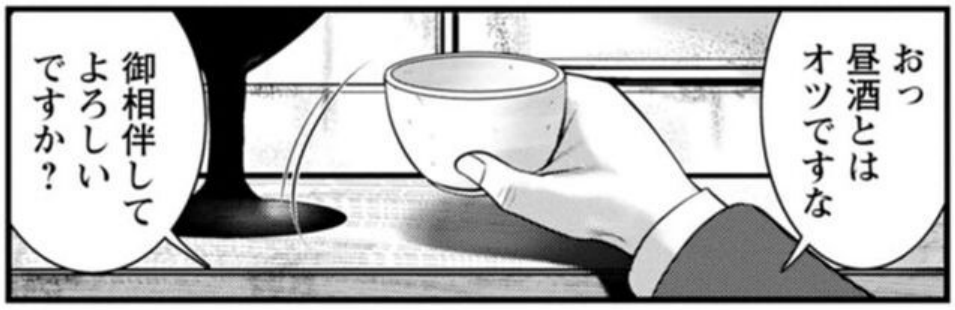
た…助けてください！
コイツらが何処からか突然……！
戸塚！

ツ
ッ
ッ

いやあすみませんね先生
建材屋の車で入り込むまではよかったのですが
結局荒っぽくなってしまいまして

何しに来た？
お前は破門したはずだ
まあまあ先生
今日はいい話をもって来たんですよ


上村人払いしろ
誰も入れるな
は…はい


おっ昼酒とはオツですな
御相伴してよろしいですか？

ガラガラ…

しかし…私がいた頃の〝神道風のインチキ宗教〟から…
ずいぶん変わりましたなぁー
今出て行った上村が拵えたものよ
お前を破門したあとにな

ほぉー
あの上村くん
がねぇー
トクトクトク…
お前がいた
30年前は無口で
真面目な若者に
過ぎなかったが
あいつはあれで
帝国大学卒で
知恵が働く…

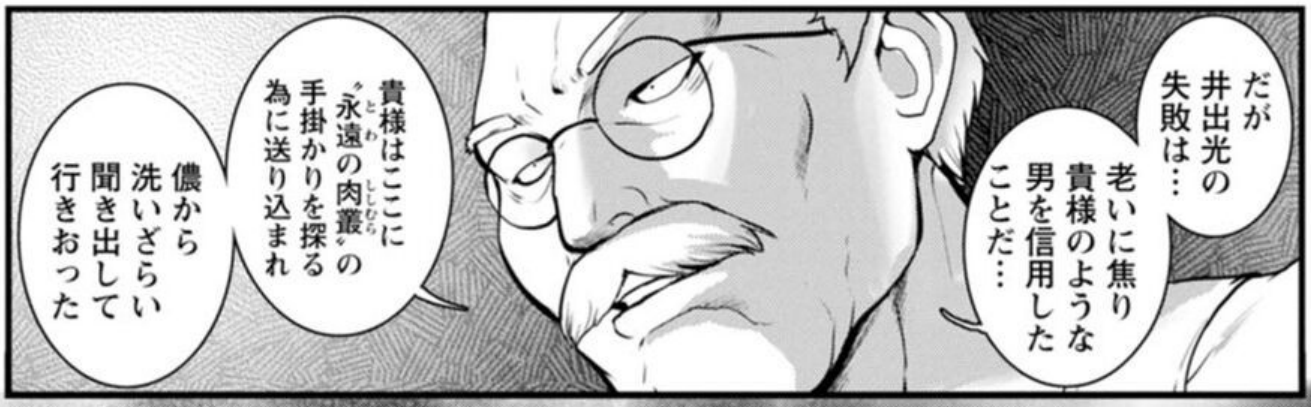
15年前
信者数が減り
続けた故
あいつの発案で
莫迦げた西洋の
魔術風に変えた
のだ…
確かにその功で
信者は10倍に増え
教団も大いに
潤っておる…

…でお前が
その忌々(いまいま)しい
面を見せたと
いうことは…
また誰か
「消せ」という
話か？

不都合な裁判の
原告や弁護士や
記者どもを
拉致して山奥に
埋めたり…
ずいぶんと
非道な真似を
やらされた
ものよ……

だがそれ以降
教団の主導権は
徐々に上村に
握られていき…
今の儂は上村の
筋書き通りに
預言者の演技を
するだけの
哀れな
操り人形よ…

あれらは
井出光先生の
為にお願い
したことで…
私の為じゃ
ありませんよ
同じことよ
貴様はその功で
政界の王だった
井出光の腹心に
なり出世した


だが
井出光の
失敗は…
老いに焦り
貴様のような
男を信用した
ことだ…
貴様はここに
〝永遠の肉叢〟の
手掛かりを探る
為に送り込まれ
儂から
洗いざらい
聞き出して
行きおった

なのに貴様は
井出光に何一つ
情報を渡す
ことなく
自分の名前も
わからぬ
生ける屍と
化すまで
井出光が老い
朽ちていくのを
眺めておった
かつて妻子を
捨てさせられた
復讐としてな

その代わり先生には
文化庁に手を回して
宗教法人の認可を
差し上げたはず
ですがね…？
こんなインチキ
宗教じゃ普通
通りませんよ
…それより
先生……

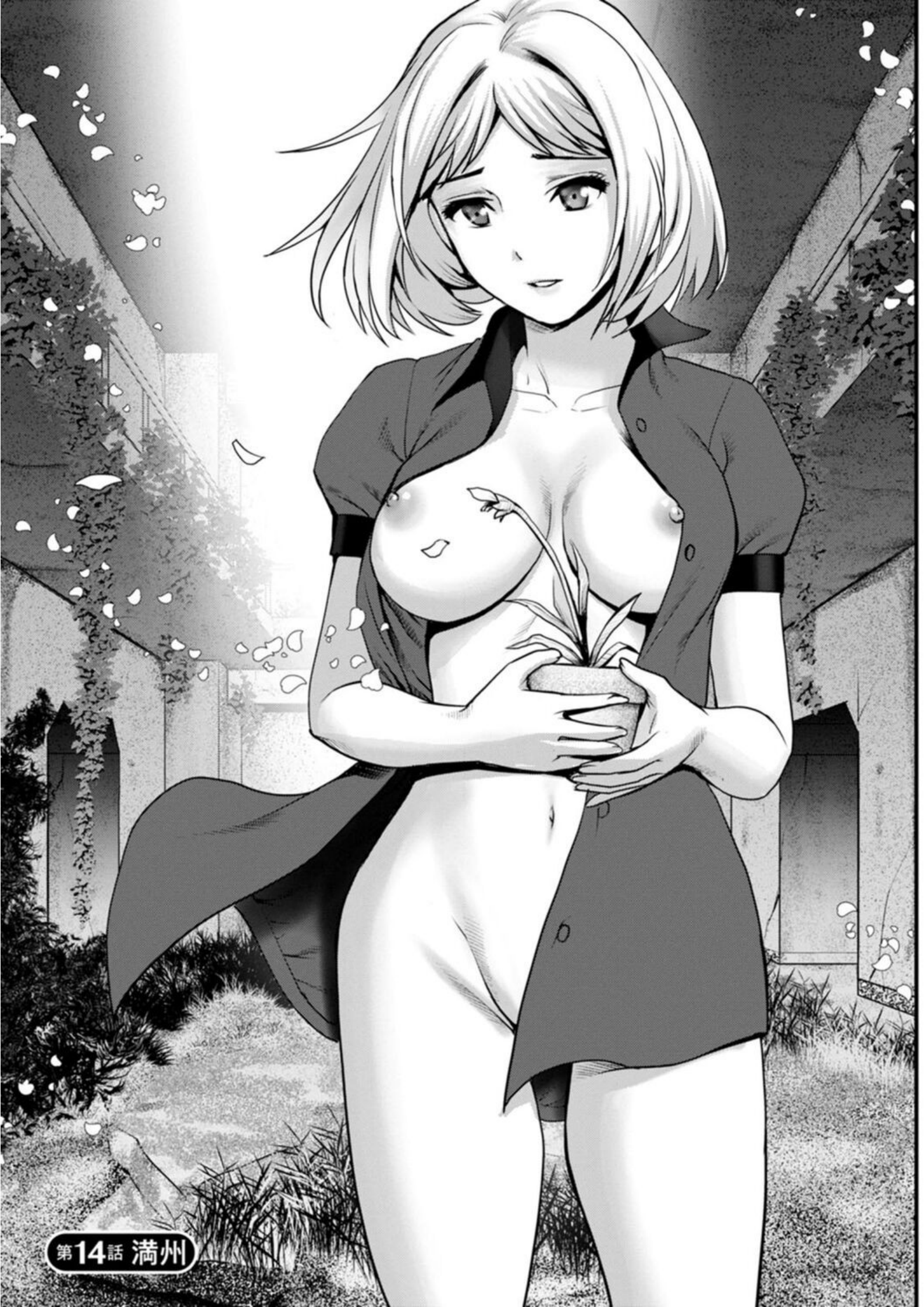
なにやら
地下道で
〝人探し〟
を……
している
そうです
なぁ……

ガシャン
ガラガラ
相変わらず鮮(あざ)やかですな先生
しかし
私が何も準備していないとお思いで？
所詮あなたは裏切り者
死後の世界で戦友たちの報復に怯える哀れな老人でしょうに

取引しませんか先生
あの地下道は都有地です
あなた方の捜索は違法行為
都や警察の介入も時間の問題です

…ですが私なら…
圧力をかけ時間を稼ぐ事ができる
……何が望みだ？

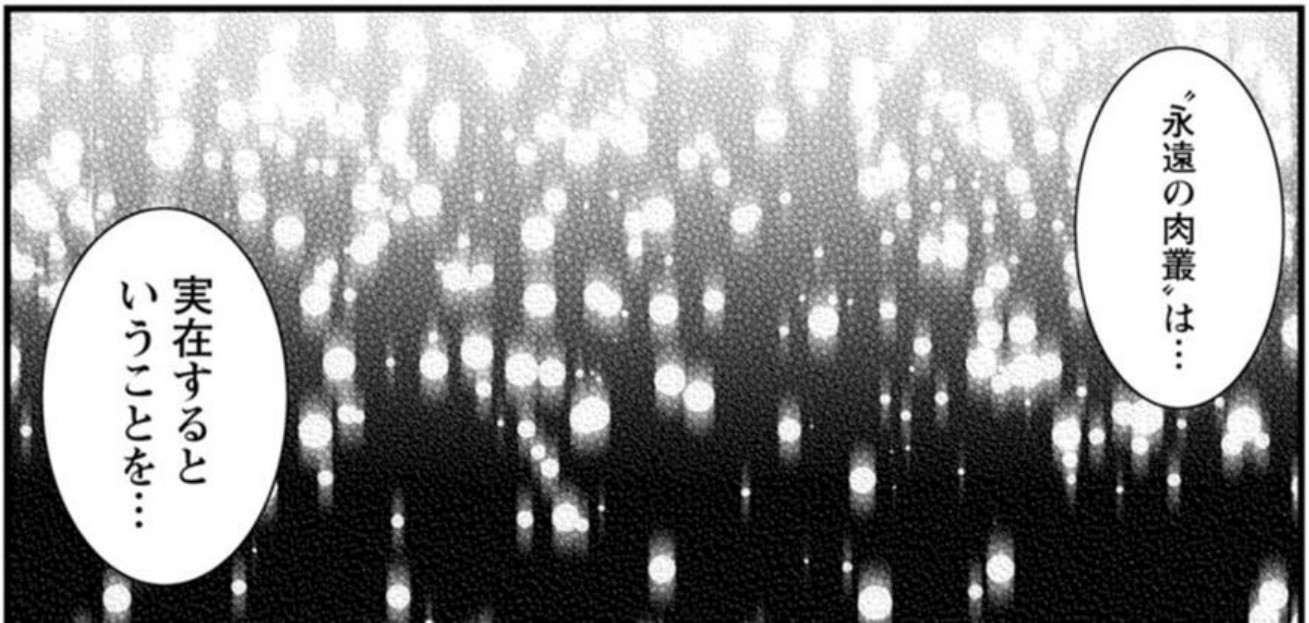
その秘密を先生と私で
共有させていただきたい
先生が探しているものが…
〝永遠の肉叢〟であるならば
第13話 END


第14話 満州

……
何の話だ？
先生は信じてなかったはずでしょう？
永遠の肉叢の存在なんて
戦争中上官から聞いただけのユーラシア大陸の莫迦げた怪談に過ぎないとね……

なのにどうして急に目の色を変えて…
あの女を探すのです？

やっぱりあなたは
心のどこかで信じていたのでしょう？


〝永遠の肉叢〟は…
実在するということを…

ここからは二人一組
哨戒を怠るな
はっ

さ 俺たちもいくぞ
はい 中尉
ははは まさか同じ村の奴が部隊に来るとはな
中尉は村の英雄です
ご一緒できるなんて感激です
よせよせ それよりお前ちょうどいい 来週 上の使いで新京の司令部にいくんだが お前付き人やるか?
はい 光栄です
そうか お前 名前は?

隼金次郎じゆうは…

…いえ20歳でありますゴォ

ゴォ

ハタバタバタ

へぇえ～～～…

はは俺たちの村よりうんとマシだろ

まさか満洲がこれ程発展しているとは…

ここは新市街だからな旧市街は相変わらずよ

ところで本日の任務は?

司令部の後平服に着替えろとの事でしたが

あれさ

えっ！
ま…まさか
ははは そのまさか さぁ

その店で初めて女を買った
ロシア人と名乗っていたが自称だろう
年増で安く新兵の自分でもなんとか払えた
だがそんなことはどうでもよかった
ただ初めての女体を目前にして…
忘我した…

日本女とは
比較にすら
ならない
豊かで
大きな
乳房…
圧倒的な
厚みを持つ
体躯に
我身の貧弱さが
恥ずかしく
なったほどだ…
おいで
坊や
は…
はい…
ふうう…
なんて
柔らかい……
中尉が
馴染みの女に
会っている間
〝一戦交えて来い〟
とこの女を
充てがわれた

日本の女では考えられない行為に…
無我夢中になった…
どう？
き…気持ちいいです…
お兄さんかわいいね
とてもかわいい
あ…恥ずかしいです……
あっあっあ…
す…すご…い
ううっ…

んっ…
んふっ…
んふっ…
んんっ…
ふっ…
ふっ…
初めて？
は…はい
じゃあ
かわいがる
ね……
何もかも
初めての
感覚に
ただ
夢見心地
だった…
んっ…ちゅ…
んちゅ…ん

で…
でそう…
ふふ…
よわいね
おにいさん

いいよ
で…でも
サックが…
おにいさんは
いらないよ
軍の規則で
予防を義務付け
られていたが
そんなことは
もう頭の中から
吹き飛んだ…

あ……
ああ…
こっ…
これが…
女の…

夢中で
出し入れを
繰り返した
生暖かく
滑る女の中に
はぁはぁ
はぁはぁ…

はぁはぁ
はぁはぁ…
あっあっ…
すごい…
わかいね…

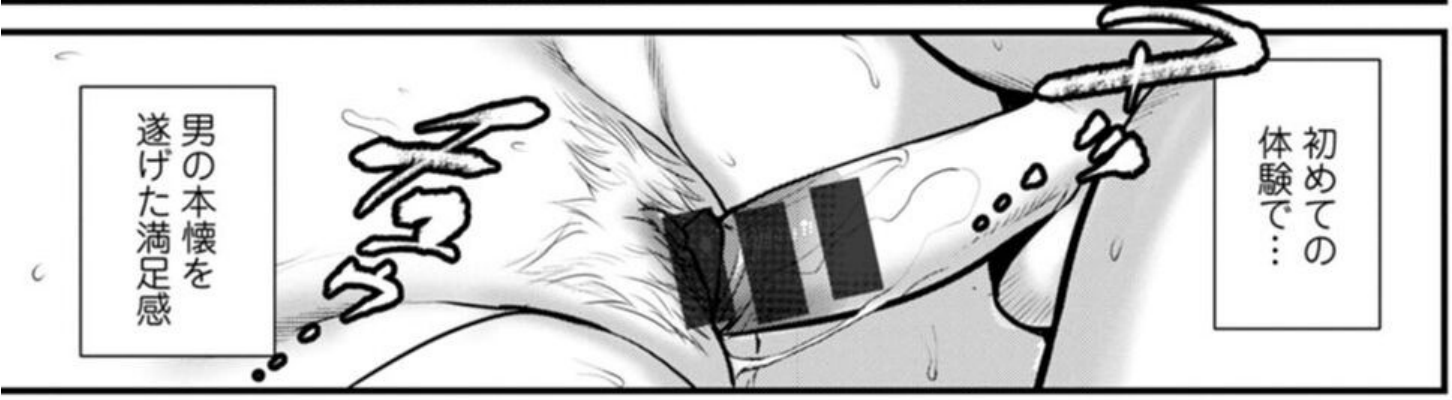
年増だけに
経験豊富で
余裕があり…
おお…
わかい…
あっはぁっ
うふぅっ…
んふぅ…
あなた
わかいね…
〝仕事〟を
楽しんでいる
ようだった

はぁっはぁっ
はぁっはぁっ
あっあっ
あっ…
あ…う…
いい……ッ

ああっああっ
ああっ…
き…
きもち
いい……
んっんっ
いいっ…
坊や…
んふっ…
ふっふっ…

はあっ
はあっ
はあっ…
い…お
おお…
いく…
いく…
女は脚を
がっちり
絡ませ…
最後まで
離そうと
しなかった
いっ…
いくっ…
いくいく
いくっ！
おお…！
くる…っ
うっ！
うううう
うううっ！

ああ…
……
はあ…
はあ…
お兄さん
よかった…


初めての
体験で…
男の本懐を
遂げた満足感

だが
それと
同時に
死を覚悟して
大陸に渡った
自分が…
生きる喜びを
何も知らなか
ったのだと…
その時
思い知ら
された…

女もその気になったのか
おお…おお…っ
続けて何度も行為に応じてくれた…

はっはっはっはっ…
大柄な体にしがみつくように
はぁ～～～はぁ～～～はぁ～…
夢中になって腰を振った

ああ…
生きて
いるとは
そんな生の
歓びを知ると
同時に
なんと
素晴らしい
ことか…
戦争と
死への恐怖が
吹き出した

ああ…
こんなこと
なら…
はーっ
はーっ
はーっ
ぬるっ
ぬるっ
兵隊に
なんて…
なるんじゃ
なかった…

遅いなぁ中尉…

こんなに待つのだったら

もう一回お願いしておけば…

すまん待たせたな金次郎

ガラッ!

あ…いえ自分も今…

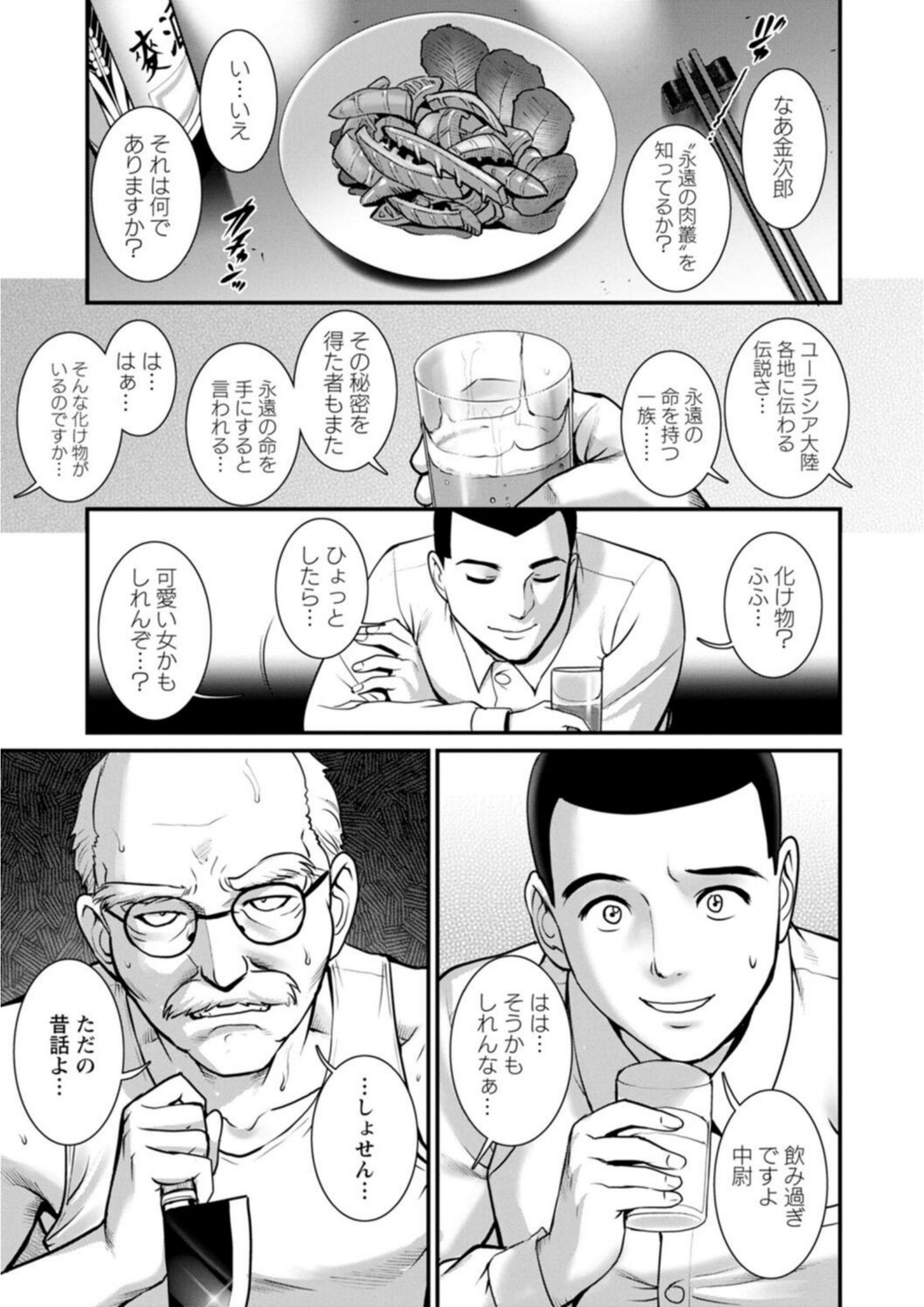
じゃあなまたくるよ麗香(レイカ)

はいお待ちしております

はは…麗香が気になるか？
あの子はこの店の一番だから
お前の給料じゃ無理だぞ
言葉にできぬその美しさに目を奪われ
その姿は網膜に焼き付いた
不透明でありながら
美しく輝く水色の目
アジア人とも西洋人ともつかぬ顔立ち

この大陸は未知にあふれている…
もっと知りたい
そんな好奇心に心が沸き立つと同時に…
不自由な兵隊になってしまった己が恨めしく思えてきた…
さ一杯ひっかけて宿に戻るぞ
明後日までに斉々哈爾（チチハル）に戻らなきゃな
は…はい
大家酒宴
カチャ
カチャ

なぁ
金次郎…
この戦争も
終わりが近い
はい
必ずや
日本の勝利に
終わるでしょう
ああ……
……しかし
現実は…
……な…
えっ…
どうもソ連軍の
動きが怪しい
条約なぞ
いざとなれば
紙切れ…
互角なのは
兵の頭数だけで
火砲も戦車も
弾も足りない…
この状況で
攻められれば
…厳しいな…
御国のため…
…などと
年齢を偽って
まで志願した
自分が…
そ…
そんなに…
日本の状況は
悪いのですか
……？
とんだ貧乏くじを
引かされた事を
この時理解した


なあ金次郎
〝永遠の肉叢〟を知ってるか？
い…いえ
それは何でありますか？
ユーラシア大陸各地に伝わる伝説さ…
永遠の命を持つ一族……
その秘密を得た者もまた
永遠の命を手にすると言われる…
は…はぁ…
そんな化け物がいるのですか…
化け物？ふふ…
ひょっとしたら…
可愛い女かもしれんぞ…？
飲み過ぎですよ中尉
ははは…そうかもしれんなぁ…
…しょせん…
ただの昔話よ…

だが井出光先生はそう思っていなかった
だから徹底的に調べていました
そのおかげで私は…
秘密を手にする寸前でしたがね
秘密を手にしてなんとする…？

決まっているでしょう
私は不死の存在となり
影からこの国を支配し続けるのですよ
先生と一緒にね

都と警察は私がなんとかします
先生はこれまで通り地下の探索を…
オオオオオオ…
…是非もない…

第14話 END

第15話 餌

はぁ……
はぁ……
く…
くそ…
出口は…
出口はどこなんだ……
ゼノ様…私をお守りください…
た…助かった…
道に迷って…
……！
誰かいるのか…？

やれやれ…
ターン…
綾のお使いも楽じゃないな……
イサカ…綾と地下道に住んでから
ずっとこんな生活をしていたのか？
ターン
ターン…
ん…
ん…
うん…私は外に出られないから……
いつもあの人が買い物に行っていた……
ま 俺もお使いのおかげか…
だいぶこの地下道に詳しくなったよ
例えば…そこの左奥
3つ目の通路から左のドア
長い階段を4本ほど上がると
とんでもないボロ屋に出る
場所はわからない
鉄条網で封鎖されていたからな

その右を
曲がった
7つ目の
ドアに入り
中の
梯子を
登ると

地下高速の
換気口まで
続いているが
とても外に
出られる場所
じゃない

つまり外部との
行き来がほとんど
できない…
俺の家にある
あの穴と…
公園の
トイレの裏を
除いてはね

誉(ほまれ)っ！
ん？

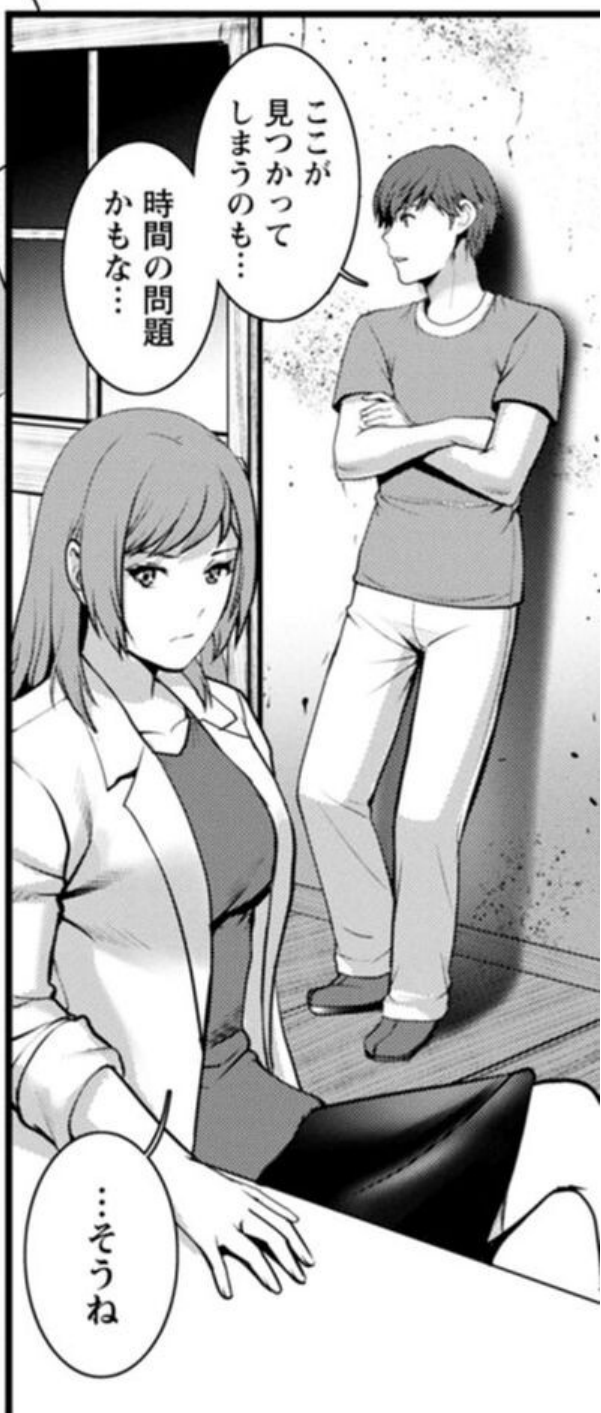
田代(たしろ)～
末永(すえなが)～…
いたら
返事を
しろ～

あいつら…
こんな深くまで入り込んだのか…
はぁ…はぁ…
……ん？
分岐したドアが2つ…
この地形は見覚えが……
ああ！ここだ！
帰れる！帰れるぞ！
この地図をゼノ様に持ち帰らねば！
ま！まずい！
あいつら地下道の地図まで…

ゴォオオオ
……くそ…

そう…
あいつら
ついに
30m(ここ)まで
来たの…

誉…
お水…
ふう…
ああ 荷物
重かった
だろ
さっき適当に
買っといた
のが……
ほら
ありがとう


ここが
見つかって
しまうのも…
時間の問題
かもな…
…そうね

念のため
脱出ルートを
確認しておこう
外のフェンスを
破れる工具が
ないと…
ごくっ
ごくっ
ええ…最悪
この病院の窓
から出られる
けど…
ガッ

あ……
う……
うぐっ…
ガク…
ガク
ガク
ガク
ど…
どうした？
イサカ
吐きなさい
イサカ！
今すぐ
全部！
オエーッ
ば…バカ
いったい何を
飲んだの？
！
桃の香りと甘みの
天然水

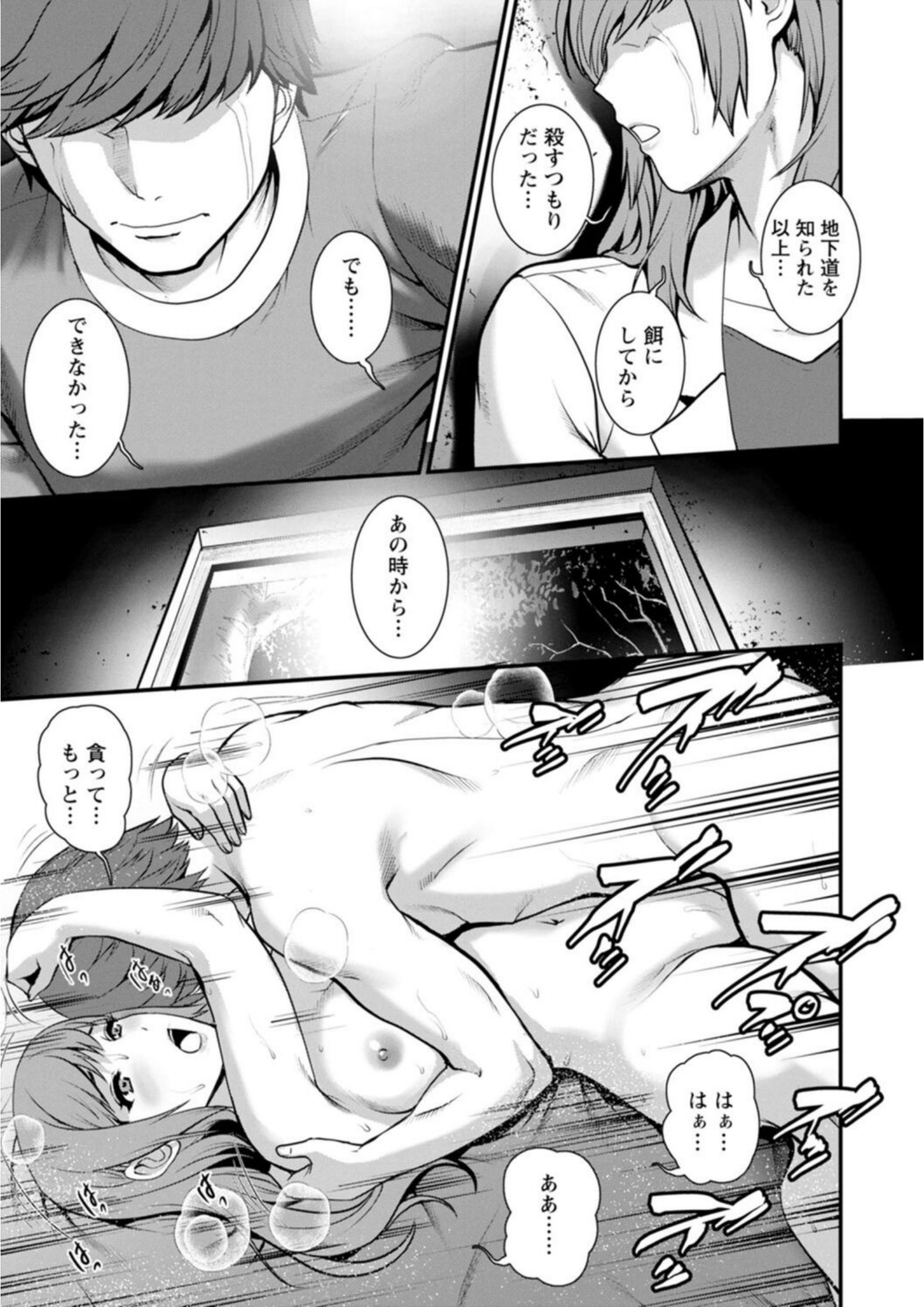
綾……
いったい
これは……
……
……
この子はね
水と体液
以外の
ものは…
一切口に
できないの…
……
……な
何を言って
いるんだ？…
信じられ
ないでしょう
けど……
この子は
そうやって…
もう百年以上
生きているのよ
……

は…
ははは…
そんな
バカな…
吸血鬼じゃ
あるまいし…
医者が
冗談を
いうのか？
だから
この子の体を
徹底的に調べた
遺伝子から
内臓機能から
何から…
この子の秘密を
解き明かした
かった…
でも！
何も
わからな
かった！
普通の人間と
何の差異も
なかった！
この子の異常に
気づいたのは…
まだ病院に
いる頃だった…
…最初に
いったい
なんだったの…
私が人生を
投げ打ってきた
医学って…

はーい
検温の時間で…
病院の食事に一切手をつけず…
点滴すら拒否しているのに
回復するのはおかしいと思っていた…
それからは知っての通り病院を辞め…
この子を調べるため地下道に軟禁したの…

イサカは…
生物の体液だけを摂取できる…
血液…母乳…
それに…
……ま…
まさか……
そう…あなたは…
私があの子に投げ与えた…
〝餌〟なのよ……

ドガッ
ガル
ガル
ガル
殴っていいわ…
私は
あなたに…
それだけの事を
したのだから…
…なんで…
言ってくれ
なかったんだ…


地下道を知られた以上…
殺すつもりだった…
餌にしてから
でも……
できなかった…
あの時から…
貪って…もっと…
はぁ…はぁ…
ああ……

仕事に人生を捧げ…
んっ……
んふっ…
女である事を忘れていた
そんな私の前に…
はぁ…
はぁ…
あなたが現れた
ああ…
もっと…
ああっあっ
あっあっ…
ああ…っ
イイッいいっ
いっいっあっ
殺さなきゃ
何度も
何度も…
体を合わせながら
いつか殺さなきゃと……
ずっと思っていた…

だけど…
できなかった…
あなたは私に…
あっあッすごいっすごッッ…
いいわっいいっ…いい…っ
女の悦(よろこ)びを与えてくれたから……
殺そうとしていたくせに…
なんて自分勝手なの……
おっおっおっあ…っ突いてぇ突いてぇ…

綾……
言いたくないなら…
言わなくてもいいさ……
ありがとう…
でも…
言うわ…
私は…
あなたを…
愛してしまったから…

笑ってよ…
はぁ…
はぁ…
誉…
ああ…
欲しい
んっ
んっく…
んむっ
んむっ…
バカな
私を…

笑いなど

しないさ…

んっんっ
ん出してっ…
でもね…
あ…
ああ…っ
あンッ…
ああ…
素敵…
誉…

あなたの体と…
その優しさに触れて…
うっ！
私は変わった
これで…
出してっ…あっ中にっ…
ああ来てぇ来てぇ誉……っ
ああ…出すぞ…っううっ…
私はもう……
綾あっ！

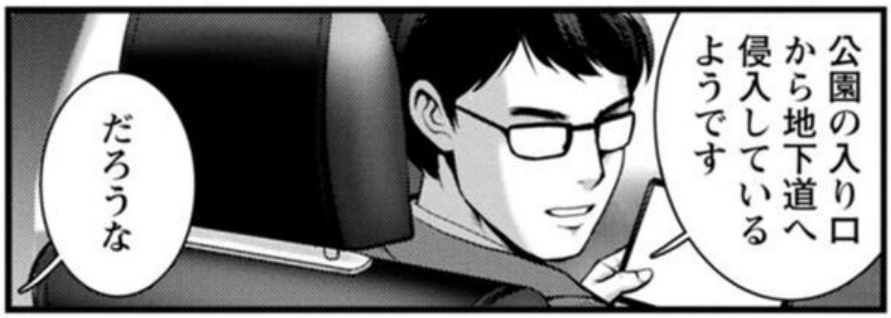
あぁ……
あぁぁ～～～っ！
ガク…
ガク…
ガク…
ビクッ…
ありがとう…
誉……
そして…

ごめんなさい…

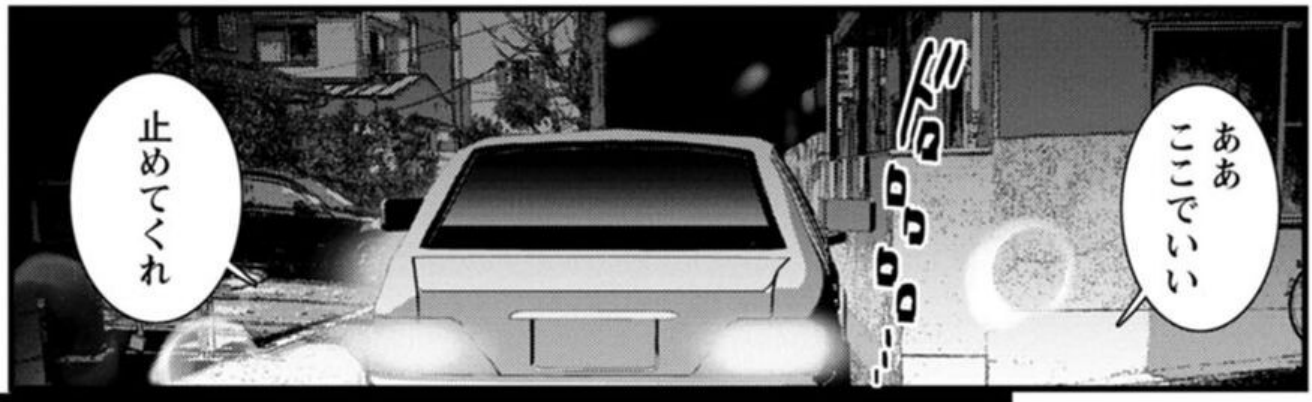
第15話 END

結構…
よくぞ務めを果たした
その地図がおそらく地下道の最深部かと
下に向かうルートがありませんでしたので
与えられた時間はわずかだ…
我々も出るぞ上村
は…はっ！
総力戦だ！
少数の警備と内務班を残して全員地下道へ！
ゼノ様御自らのご出座だ！
続け！
遅れるな！

動き出したようです
そうか


公園の入り口から地下道へ侵入しているようです
だろうな

あの地下道に出入りできる箇所は少ない
連中を出し抜くにはいい機会だ


ああ ここでいい
止めてくれ

……あの
ここは？
ん？ ああ…
ここはな…

第16話 侵攻

留守のようです
よし探せ
ドカッ
ドカッ

ここの住人…
秘密の抜け穴に気づいたようだ…
……では
可哀想だが…
生かしておくわけにはいかんな…

ターン
ターン
奴らが来ない事を祈るしかないが…
念の為に家に戻って荷物を…
タ！
！
な…なんだこの空間は……？
ギッ…
おいっ！
お前そこで何をしてる！
ジャリッ！
あ…あいつら！
もう俺の自宅まで…！
ダッ！
待て！
逃すな！

カーン…
カーン…
カーン…
…誉…
どこ…？
ああ……
誉……
ア…

あなたがいれば
私は生きてゆける…
ちゅ
ちゅん
命を繋いでもらえる…
でも…
ちゅっ
ちゅっ
ふっ…
ふっ…
私はずっと……
ふっ…
あなたを欺いていた…
あなたにだけは…
去ってほしくなかったから…

いいよ…
きて
誉…
ああ……
うんンッ！
うっうっ…
うう…っ
あっあっ
あっはっ
あっあっ
あっあ…

っあっ
あっあっ…
あっあっ
あっあ…
はぁ…
はぁ…
はぁ……
あッ…！
誉…っ
あっあっ！
あ…あっあ
ああっ！
ああ…っ

あぁっん
あ…っあっ
私はただ
生きるため…
あっあっ
あっ…
あなたの
精液を
必要と
していた
あっ…
感じる…
最初は
そうだった
それ…
っあッ…
でも…
私の
居場所は
あなたの
中にこそ
あると
ようやく
気づいた…
もう…
それだけじゃ
ない…

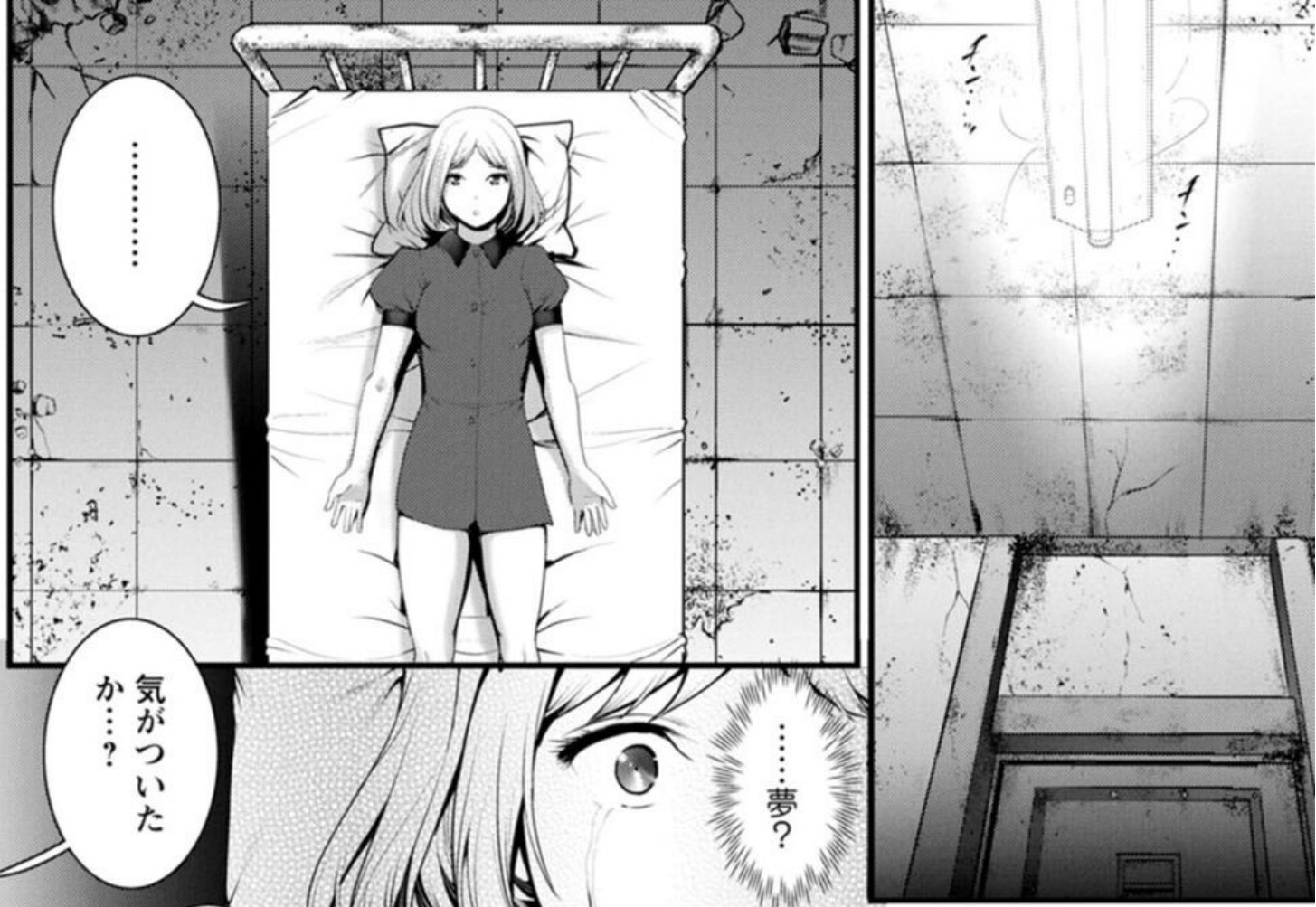
あてもなく
漂流し続ける
私の人生に…
あなたは
まるで
輝く灯台の
ような存在…
あなたは
私の生きる
希望…
どこまでも…
連れていって
誉……
私を……

はぁ…
ああ……
はぁっ…
はぁっ…
誉っ…
ミシッ
ミシッ
ミシッ
んっ……
んんっ…
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
んふっ
んふっ…

幸せかい？
ええ…
幸せ……
あのね…
誉……
はっ、はっ、
はっ、はっ、
私はあなたよりも…
ずっと長生きしてしまうかもしれない…
ヴヴヴ
ヴヴヴ

例え…
そうだとしても…
あ…あっ
い…いく…
私は…
あなたの命が尽きるその日まで
あっ！
ああっ！
あっ！
あぁ～～～～っ！
ずっと添い遂げる
はぁ…
はぁ……
ほま…れ……

さよなら
幸せかい？
ええ…
幸せ……
は
は
ぱっ！
誉っ…
誉……
誉――っ！


……
気がついたか…？
……夢？

…ごめんなさい…
私のせいで…
いいんだ…君の秘密を敢えて聞かなかったのは
俺の方だから…

誉……
どうやらここはもうダメらしい…
黒服の奴らが自宅まで…

あのね…
誉…

遠い昔…
私の一族は
黒海の沿岸に
住んでいた

家畜を育てて
肉を売り
残った血を飲み
ひっそりと
暮らしていた

でも…
何年経っても
歳を取らず
血を飲む
姿を目撃
されると…
近隣の住民は
訝しむように
なった…

それが
悪い噂に
変わり
やがて尾鰭がつき始める
私の一族は
不老不死の
怪物と決め
つけられ…
そして…
その血肉を
貪ることで…
不老不死を
得られる
そんな噂を
盲信した人々に
襲われるように
なった

それが永遠の肉叢という伝説の始まり…

私たちは不老不死じゃない

ただ血を飲み歳をとるのが遅いだけの人間…

だけどバンピルと罵られ…

時にウプイリと恐れられ…

どこにも一族の居場所はなかった

一族はその度に住む場所を追われ

逃げて…

逃げて…

また逃げて…

長い年月で一族が数人に減った頃大陸の東端に辿り着き…

でも私に一族の性質が受け継がれ…

それがまた露見すると

一族はまた襲われて全滅…

残った私を逃がそうとした父までも…

騎馬民族の父は優秀な狩人だった

そこで母と現地人との間に私は生まれた

そうして
生き延びた
私は…

生きるために
娼館で男の精を
得るしかなかった

そして
お客だった
関東軍の
伊坂中尉に

戦後日本に
連れられて
一緒に暮らし
始めたけど

間も無く
誰かに殺されて
しまった…

私がイサカと
いう日本名を
名乗るのは…

その人の
恩を忘れたく
なかったから

……

…娼館で
働いている
頃ね…

中庭に
桃の木が
あったの

私はモノを
食べられない
から

どんな味が
するんだろう
って

ずっと
眺めて
いた

ねえ誉

桃って

桃の香りと甘みの
天然水

あんな味が
するんだね
……

……違う…
違うんだ…
あれは…
人工の…
偽物の…
桃なんだ…
……誉
逃げよう
俺と一緒に生き延びるんだ
イサカ
第16話END

この穴蔵ともお別れだな…
オオオオオ…
綾(あや)…
俺のリュックに荷物は入れたか？
ええ…
大したものはないけど…
なぬ!?
そうか…
じゃあ…
始めるか
ええ……
いいわ…誉(ほまれ)……
は？…
はぁ…

はぁ…
んはぁっ…
もし脱出に失敗すれば…
はぁ…
んっ…
んん…っ
きっと私たちは殺される
…だろうな
その前にあなたの
ああ感じ合おう
暖かさをもう一度感じておきたいの…

探せ！
この先が最深部だ！
ええ…何だか…
はぁ…はぁ…濡れているな綾……
今日は体が熱いの…

ああ……
はっ…
はっ…
う…うっ
いいわっ
うっ…
誉っ…
ああ…
あ……っ
あっあっ
あっあっ…
あ…
きくぅう
そこっ
そこぉ…
ビリビリ
きちゃう…っ
あ…
ああ…ッ
ああ…
ああっ…
あっ…
はぁぁ…っ
あアン
あアンっ
ああ…ン

お…おっ
おっおっ…
おお…
誉…
綾…
脚抱えて
はぁ…
はぁ…
おおっ！
あっ！
あっ！
すごいっ
あ～～～～っ
あっあ～～～っ
もっと…っ
いっいっ
いい～～～っ

ぶっ
ぶっ
ぶっ
ううんっ！
うっうっ
はぁはぁ
はぁあっ
綾っ…
う～～～っ
う～～～
あ……
い……
いく…
まだだっ
ううっ…
気をやるな
…綾っ
まだだ…っ
まだ…
ああ～～～
ダメダメ…
いっちゃうっ
いっいいっ
いく～～～っ
いく～～～っ！

はぁはぁ
綾…っ
一緒に…
行こう…
ご……
ごめん…
ね…
あ……
ほま……
……れ…
あぁっ！
あっあっ
あうううっ

うっ！
ああ……
ああ……
出っ…
出て…
ああ…
はぁ…
はぁ…
はぁ…
はぁ…
はぁ…
はぁ…
綾……
誉…
ありがとう
私が女だと
思い出されて
くれて…

イサカ
ついて
来れるか？
うん
大丈夫
タ
ン
誉の家は
富嶽の黒服…
公園はカルトが
押さえているなら…
他の道を
行くしかない
わね……
他に
あるのか？
ターン
ええ…
いくつか
私が買い物の
時に使ってる
通路…あと…
急いで
この先よ
ターン
タン

お前たちは向こうを
私はこの辺を巡回する
ターン
ターン…
はい
くっ…もうこんな所まで…
ここのルートはダメね…
こっちよ
タン
タン
急いで！
危険なルートだけど…
そこを通るしかないわ
足元に気をつけろイサカ
カン…
カン…
カン…
うん…
はぁ…はぁ…
ここは？
ガチャ
ガッ！
地下10mぐらいよ

こっち！
早く！
あのドアよ
開けて誉！
くそっ！開かない
急いで！

!
ガオオオオ…
……ど
どういうことだ…？
手を貸して
これで渡るのよ
…くっ
はぁ…はぁ…
イサカ来い
こ…怖い…
ううっ…
がんばれ
もう少し

そこまでだ
キャッ
やれやれ…
ずいぶん探したよ
イサカ
あ…綾！
渡りなさいイサカ
そこの男イサカを戻せ
この女がどうなってもいいのか？
行きなさい！
ど…どうする気だ！
ボッ

ガッ
ゴッ!
行って…
なっ…
何を…
綾!
まだ
私には…
やらなければ
ならない事が
あるの…

ふん…
面倒なことを
してくれる…
まあいい
向こうにも
部下を回して
ある…
しかし…
医者に
匿われて
いたとはな…
…あなたは
イサカの
秘密を
知って
どうする
つもり？
…やはり
知って
いるのか…
それなら
わかるだろう？
永遠の命を
得るためだよ
…ふっ
所詮
あなたも
何も
わかっちゃ
いないわ…
…何？

う……
あ……
あ……
ガク…
ガク…
…わかってないのは
お前の方だ
女
パパ
おたんじょうびおめでとう
ガク…

……ま
まさか…
お前…
な……
……
なぜ…
は…
明和(みわ)……
なのか…？
母さんを…
捨て…たの
……？
私と…
母さんは…
邪魔…
だった
の…？
ち……
違う……
違うんだ
明和……
ガクガクガク

わ…私は
私は…
なんということを…
す…すまなかった
すまなかった明和…
私は30年前
恩師の井出光(いでみつ)先生に呼び出されて…

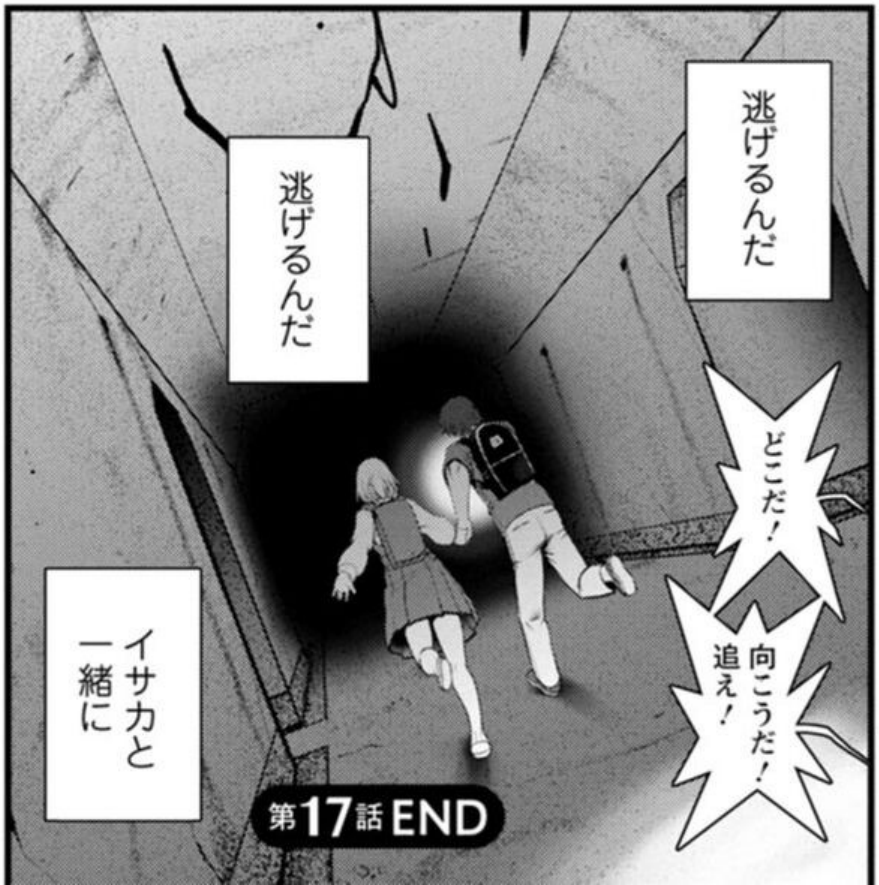
…例の記者の始末ご苦労だった
貴様は見どころがある
だがわしは身内しか信用せんたちでな…
お前わしの姪を嫁にとれ

あ…ありがとうございます…
ですが…
私には家族がもう…
お前の事情など聞いておらぬ
わしに従うか全てを失うか
好きな方を選べ
政治家として後ろ盾が必要だった私は…
先生の命じるまま悪事に手を染め…弱みを握られ…
命令に従う他なかったんだ…

私は
お前たちに…
取り返しの
つかない事を
してしまった…
許してくれ…
……ええ
……
許すわ…
……
だから…
お……
ズッ
ブル…
ブル…
ぐお…
おっ…
ぐ……

終わりにしましょう…
父…さん…

ううっ…
綾っ…
くそっ…
くそっ…


逃げるんだ
逃げるんだ
どこだ！
向こうだ！
追え！
イサカと一緒に
第17話 END

奴らはどこだ！
見失うな！
綾はいない…
公園の出口も使えない…
なら…
地下鉄の線路に出るしかない！
タン
タン
タン
タン
タン
はぁ…
はぁ…
はぁ…
はぁ…
はぁ…
はぁ…
あったこの先だ！
タタッ
危険だが行くしかない
タッ…
イサカ頑張れ！
さあ！

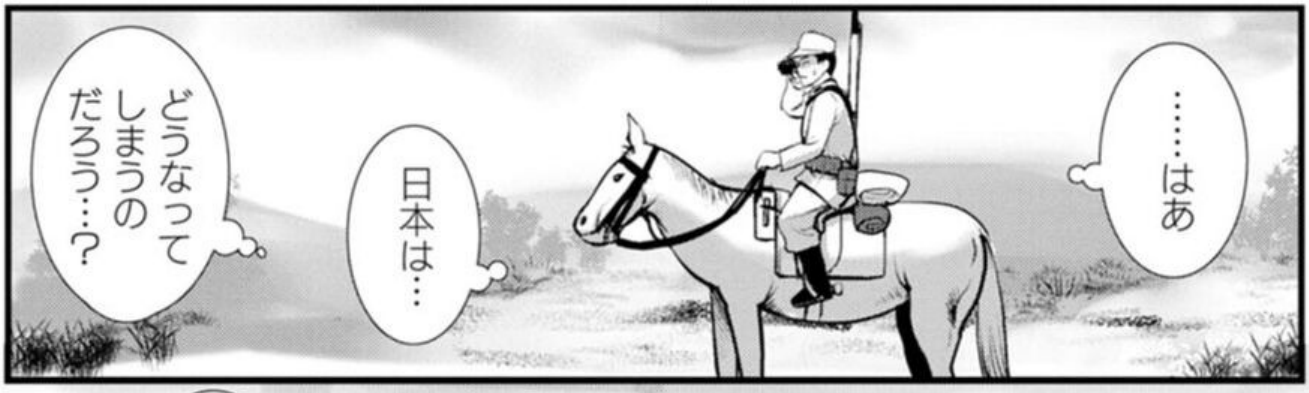
ほ…
誉……
誉ーっ！
ふむ…
まだ使える
ものだな
女を
確保しろ
は…はあ
しかし…
なぜそこまで
この女を…？
お前には
言って
なかったか
この女が
「永遠の肉叢」
だよ

に…
逃げろ…
イサカ…
誉！
イサカ…か
満州の
娼館(れいか)では
麗華だった
日本に来て
伊坂(いさか)から
取ったのか
脱走兵が国に
戻った以上
上官に顔を
見られては
困るのでな
…気の毒な
事をしたよ
……まさか
あなたが…
誰なの

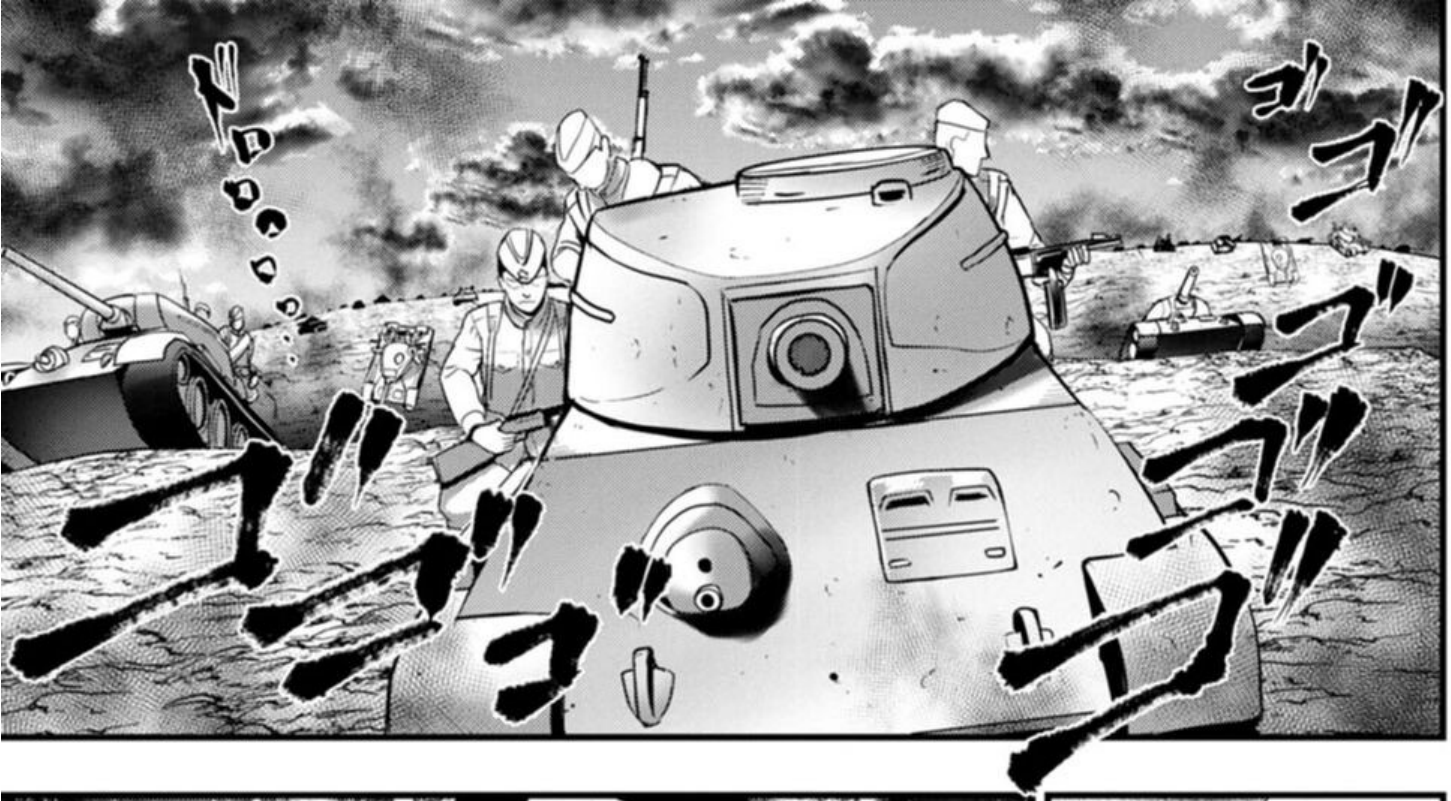
名乗る
必要は
ない
さあ
永遠の肉叢を
差し出せ

最終話 月光

ご…
ご冗談を
師教様…
永遠の
肉叢
なんて…
ただの
でっちあげ
じゃない
ですか
邪魔が入らない
よう見張ってろ
ようやく
儂(わし)は…
永遠の命を得て
救われる……


……はあ
日本は…
どうなって
しまうの
だろう…?

…ん?
…む…
無理だ…
勝てるわけ
ない…


ゴゴゴ

……
あなたは
まだ……
何百年も
昔の…
古い迷信を
信じているの？
黙れえ！
お前も…
今すぐ
伊坂の元に
送ってやる
わぁぁ！
誉！
ま…まだ
死んじゃ
いないぞ…
間抜けめ

ぐっ…
上村(かみむら)ぁ！
こいつらを撃て！
…その話が本当なら…
困るんですよねぇ…
あなたが不死者になったら
師教様…
教団が私の物にならないじゃあないですか……

おっ…
お前…
かっ…
か……
上村アァアアア！
ははっ…
ひゃはは…
師教様が…
いつもおっしゃっていたじゃないですか
世の中には「騙す側」と…
「騙される側」しかいないってね

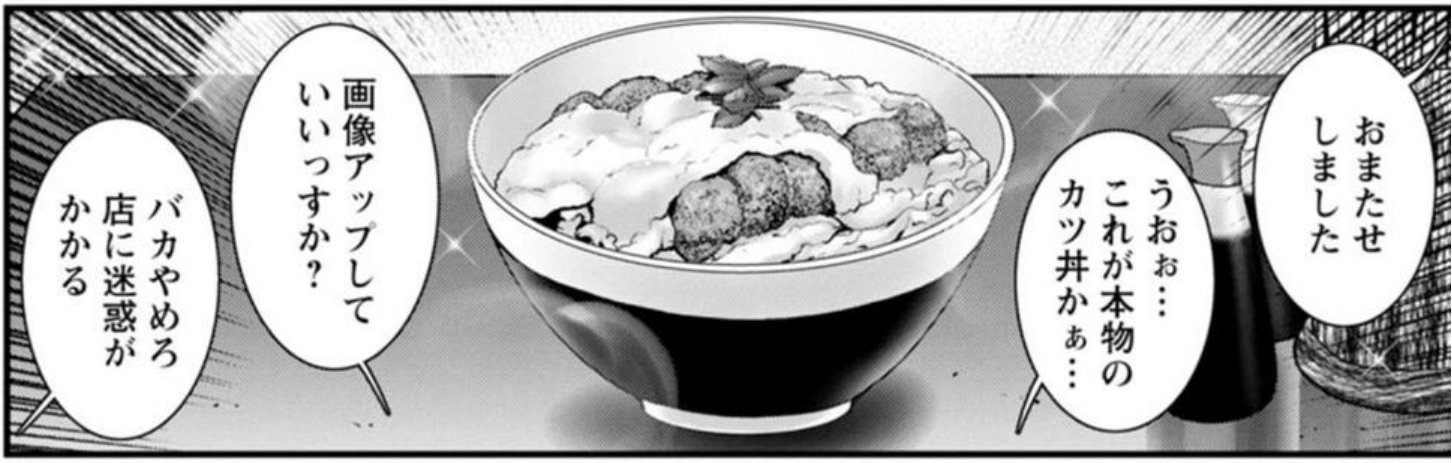
RadeX cargo
RadeX cargo
RadeX cargo
ルルルル…

ふぁ～～～
ふぁ～あ…
かったるいなぁ～～～
昼飯どうします～？

そうだな…このルート上に
本物のカツ丼が食える店がある

え！そ…それって
本物の豚肉なんですよね？
ガバッ！
よし決まりだな
RadeX

ドライブイン
大衆食堂
綾
ラーメン
チキッ
チキッ


おまたせしました
うおぉ…これが本物のカツ丼かぁ…
画像アップしていいっすか？
バカやめろ店に迷惑がかかる

ぱくっ
いただきまーす
こ…これはまさに…
本物の豚肉！
そうだ
子供の頃に食ったことあるだろ？
申訳ありませんがお料理の持帰りは一切お断りします 店主
おお！
いやー…この人工肉にはない本物の脂身のうまさ…
たまんないっすねぇ…

お気に召しました？
いや～うまいっすよこれ
テレビいいかな？
どうぞ
ピッ
では次のニュースです
宗教団体「永遠の肉叢」元代表ゼノスこと本名 上村智也（ともや）死刑囚の死刑が執行されました
HEAD LINE NEWS
ああ…終わったか…
永田町周辺の同時爆破テロで27人が亡くなった事件の首謀者として…
なんか関係あるんすかそれ？
もぐもぐ
…若い頃勤めていた会社にな…
仲のいい飲み友達がいたんだ…
そいつはこの団体が地下道で起こした事件にまきこまれちまって…
今も行方不明のままさ……
…あいつ…
ジャーッ
カチャン
カチャン
どうしているんだろうな…

いらっしゃ…
と…
徳さん
どうしたの
その顔？
いやさ…
反肉食団体の
連中が畜舎を
襲ってきてな…
返り討ちに
してやったよ

反肉食の
やつら…
こんな田舎にも
妨害に来てるん
すね…
去年
欧米の圧力で
肉食規制法を
強化したから
な……
社会正義の旗を
振りかざす奴ほど
不寛容で情け容赦
無いものさ……
RadeX

徳さん
いつも
すみません
なぁに
うちの豚肉を
喜ぶ人が
いる限り
続け甲斐が
あるって
もんさ

今週分の
豚肉
それから
新鮮な血だ
ドン!!

また来週な
豚の血料理
完成したら
呼んでくれよ
はい

肉食は
残虐行為です！
心ある皆さん
今すぐやめま
しょう！
肉食は人の
AMF
AMF
ANTI-MEAT
肉食は
犯罪行為
肉食は
自然の摂理に
反する不健全な
反知性行為！
飲食店は
畜肉の提供を
今すぐ中止せよ！

す…すまん
つけられた
ようだ…
くそっ
あいつら…
…イサカ？
帰りなさい
店員の
方かな？
君たちの
時代遅れの認識を
アップグレード
してもらいたい
…小賢しい
…え？

たかだか30年も生きていないあなたたちに
人の営みの
何がわかると言うの…？
人が生きることが…
どれだけ辛く…
罪深く…そして…
美しいということを…
思い上がるな！
おいガキども肉食規制法は畜産の新規開業を禁止する法で
既存の畜産業や飲食店の提供を禁止する法律じゃねえぞ
営業妨害で訴えられたいのか？
ふ…ふんっ
店も店なら客も客だ
意識の低い低所得者どもが！
助かりましたお客さん
なぁに
ここのうまいカツ丼が食えなくなったら困るからね
いやぁー娘さん
大したもんだぁ
はっはっは
はは…お恥ずかしい

ありがとうございましたー
はぁー美味かった
ドライブイン大衆食堂 綾
よしいくか
リンク忘れんなよ
RadeX cargo
あはいっす
しっかし自動運転の時代なのに
まーだ配達は自動化できないんすかねぇ
…そうなったら俺もお前も…
お役御免ってわけだな…
…あ
そ…そうか…
それもそうっすね……
ラーメン
…いいの？
ああ……

ドライブイン
大衆食堂
綾
cocacola
ドライブイン
大衆食堂
綾
リー…
リーー…

きて…
誉……
イサカ…
君は
いつまでも
美しい…
しん…
わかっ
しんっ
昼間の
お客さん…
誉の友達
だったん
でしょ…？
ああ…
よく2人で
うまいものを
食いに行った
それが
今になって
あっ……
役に立つ
なんてな…

あっ…
あは…
あっあっ…
ああ…ッあん…
んっ…んっ…
はぁ…はぁ…
んお…っんんん…
ふっ…むんむっ…
んっくんっくっ
んんン…ッンっんんっ
ん〜〜〜〜っんふ〜〜〜〜っ

はぁ…
はぁ…
誉…
はっ
はっ
入れて…
……
あっあっ
あっあ…
あっ…
ああ…
んあっ…！
ブルブル
あ…っ…
太いっ…
はっはっ
あっはっ…
誉ぇ…
いい……
はっはいるっ
はっはっはっ
あっあっあっ
あっあっあっ
あっ
あッ…ああ
はぁぁ…っ

気持ちいいかイサカ…
うん…いい…
気持ちいいよぁ誉…
俺も…くっ…
若い頃のようにはいかないが……
それでも…うっ…
うんっうんっうれしいっうれしいっ
お前を満足させてやりたい…
あ…うっうっうっ…
いくぞ…っ
あっあっあっうんっ♡
きてっきてっ
ああいっいっぱいほしいいっ♡

あ……
うっ…
出るっ！
あ……！
ああ…
イサカ…
ああ…っ
ビュ。
ビュルル
ドピッ
ドピッ
ビュ。。
あうっ…
んんっ…
かけて…
あ…むッ
誉っ…
んンッ…
はぁ……
はぁ…はぁ…
ああ……
はぁ…
はぁ…
あは…♡
あたたかい…

はぁ…
月が綺麗ね
リーン…
リーン…
誉…
ああイサカ…
世の中は変わっていくのに
はぁ…
月は十年経っても百年経っても変わらない…
ふふっ…

イサカ…
君は…
いつまで
生きるの
だろうな…

わからない…
でも…
誉は
私を救って
くれた…

だから…
あなたの
命が尽きる
その時まで
共に…

『地下30mの蜜月を…』完

【初出】アクションピザッツ 2021年3月号～11月号

【著者解説】
生物の体液のみを摂取し
老化速度が異常に遅い
特異体質に生まれた
イサカとその一族
他者に移植できぬ
イサカの一族の体質を
不死の秘密と思い込む
人間達の欲望が古く
中世の時代から悲劇を
招き続けていた
その悲劇の結末は
三人の命を贖いに
終止符を打つ

カバー折返し・1

CONTENTS

第10話 ネズミ……3
第11話 思惑……23
第12話 猟犬……43
第13話 師弟……63
第14話 満州……83
第15話 餌……103
第16話 侵攻……123
第17話 峡谷……143
最終話 月光……163

COVER DESIGN
VOLARE inc.

ANGEL COMICS

カバー・表

成年コミック
ANGEL COMICS
ACTION PIZAZZ BRAND
地下30mの秘め事に…
Secret at 30 meters underground
地下30mの蜜月を…❷
彩画堂
Presented by SAIGADO

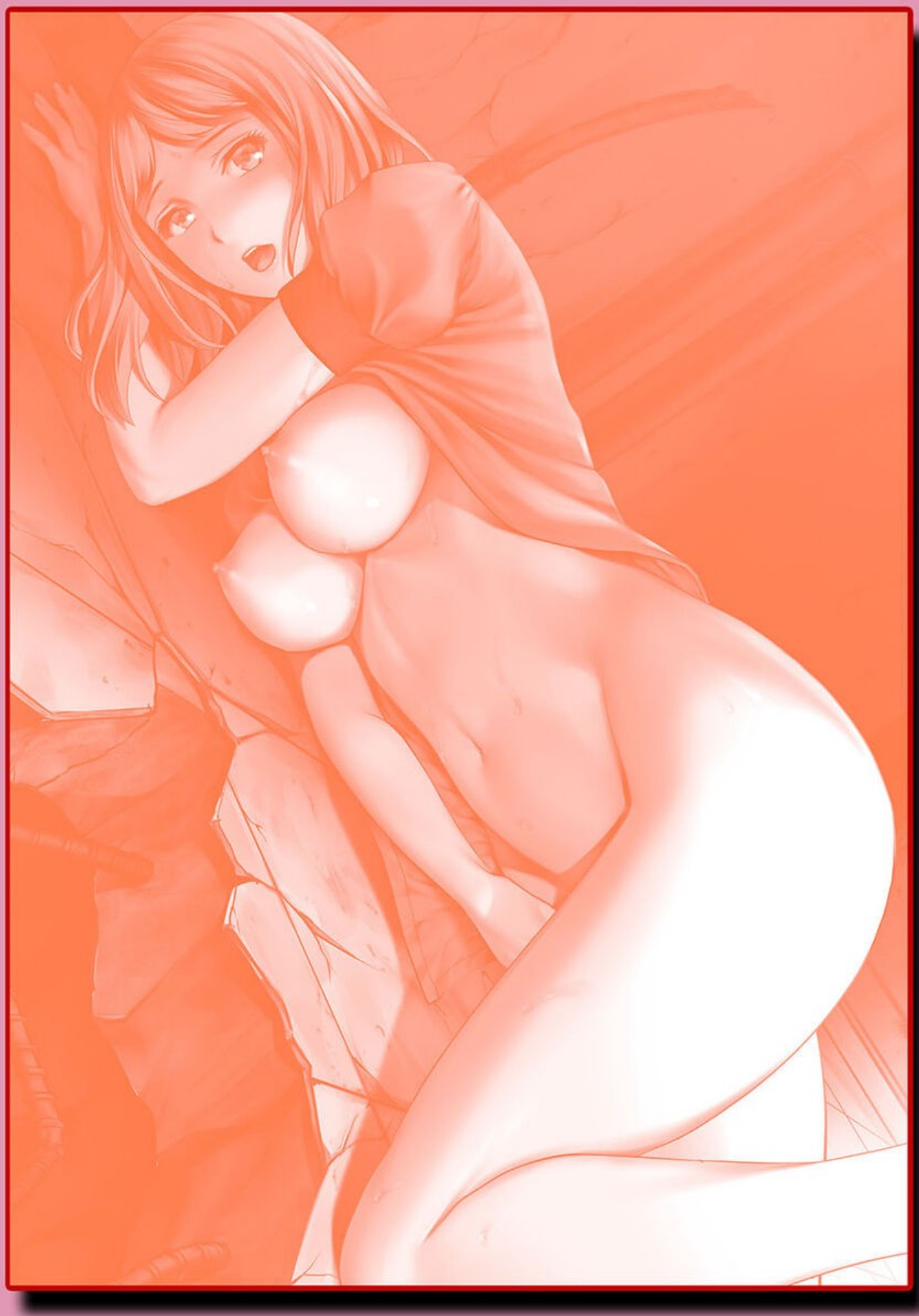
カバー・裏＋背表紙

エンジェルコミックス
PIZAZZ BRAND
地下30mの秘め事に…
地下30mの蜜月を…2
彩画堂
Presented by SAIGADO
成年コミック
エンジェル出版

カバー折返し・2

Cover Gallery

表紙・表



ANGEL COMICS

Cover Gallery

表紙・裏

ANGEL COMICS

エンジェルコミックス

地下30mの秘め事に…

地下30mの蜜月を…②

2021年12月16日　第1刷発行

著者ⓒ◉彩画堂

発行者◉庄盛克也

印刷所◉凸版印刷株式会社

発行所◉株式会社エンジェル出版

〒162-0813　東京都新宿区東五軒町3-28

[営業]03-5261-4860

[編集]03-5261-4846

装幀◉VOLARE inc.

装画◉彩画堂

編集協力◉RPGカンパニー2

落丁・乱丁の場合は本社にてお取り替えいたします。

●定価はカバーに表示してあります。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製・転載は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用でも著作権法違反です。

ⓒSaigado 2021 Printed in Japan.

ISBN978-4-87306-976-0 C9979

◆この作品はフィクションです。登場人物・団体等はすべて実在のものとは関係ありません。